

(硫黄泉)鹽原(鹽類泉)亦著名ナリ  
 東海道ハ四十個ナ有シ伊豆ノ十三個最多トシ相摸ノ八個之レニ次ギ  
 甲斐之ニ次ク其他ノ諸國ハ僅少ニシテ或ハ全ク之レナキモノ八國アリ  
 (伊賀志摩尾張三河遠江安房上總下總尤著名ナルハ伊豆ノ熱海ニシ  
 テ東海ニ濱ス泉質硫黄泉ニシテ鹽氣ヲ含ム晝夜各三次ノ湧沸アリ是  
 レ所謂間歇泉ニシテ至熱物ヲ淪スベシ中風疝積脚氣淋疾等ニヨシ之  
 レニ次グモノハ相摸箱根山中ノ湯本(鉄泉)塔澤(鹽類泉)宮下(全上)堂ヶ島  
 (全上)底倉(硫黄泉)木賀(硫黄泉)等所謂箱根七島ニシテ就中湯本宮下尤モ  
 著名ナリ其他伊豆ニ修禪寺土肥古奈畑毛上船原湯ヶ島松原アリ甲斐  
 ニ湯村川浦鹽山下部武藏ニ小河内芝原伊勢ニ湯山御館等アリ  
 北陸道ニハ五十一ヶ處ナ有シ内越後ノ二十八ヶ處ヲ以テ最多トシ加  
 賀越中各十ヶ處之ニ次ク若狹佐渡ノ兩國ニハ之ナシ本道ニ於ケル鐵

泉ハ甚著名ナルモノ少ナク稍著シキモノヲ擧グレハ加賀ニ山中(硫黄  
 泉)山代(全上)栗津(全上)井宮湯涌大熊(鹽類泉)ノ數湯アリ越中ニ有峯黑薙  
 アリ越後中央部ニ出湯田上村杉アリ彌彦山麓ニ稻島岩村アリ妙高山  
 間ニ關山赤倉蓮華アリ飯豊山下ニ瀧谷アリ魚沼川ニ椽尾股及大湯等  
 アリ  
 畿内ニハ十個ナ有シ内攝津ハ五個處ヲ占ム尤著名ニシテ古來人口ニ  
 膾炙セルモノナ有馬トス攝津有馬郡鹽原山湯山町アリ泉質鹽類泉ニ  
 シテ僂麻質斯皮膚病神經諸病ニ効アリ其他平野寶塚山馬ヶ淵湊山等  
 孰レモ此國ニアリ  
 山陰道ニハ凡二十ヶ所アリ石見ノ六ヶ所ヲ最多トス其著名ナルモノ  
 ハ丹波ノ鹽崎(炭酸泉)但馬ノ湯島(鹽類泉)因幡ノ吉岡湯(同上)石見ノ有福  
 等トス



山陽道ニハ極メテ少ナク只十一ヶ所ヲ有スルノミ而シテ其中四個ハ美作ニアリ然レモ著名ナラスシテ敢テ記スルニ足ルモノナシ南海道ニアリテハ其數凡テ十六ヶ所其著名ナルハ伊豫ノ道後硫黄泉ニシテ松山ヲ去ル二十里温泉郡道後村ニアリ古來極メテ有名ニシテ浴客多ク皮膚病ニ大効アリ温泉谷楠窪亦此國著名ノ鑛泉ニシテ紀伊ニ龍神湯崎本宮川湯等アリ土佐ニ別役圓行寺鶴湯安並等アリ西海道ニハ鑛泉極メテ多ク東山道ニ次ク之レ火山脈ノ連亘スルト多ケレバナリ其總數七十ヶ所ニ及ブ中肥後ノ二十四ヶ所ヲ最多トシ薩摩ノ十四個之レニ次ク其著名ナルモノヲ列擧スレバ筑前ニ武藏硫黄泉筑後ニ別府濱脇炭酸泉アリ肥前ニ柄崎炭酸泉古湯(全上)嬉野(全上)小濱(鹽類泉)アリ肥後ニ山鹿硫黄泉アリ大隅ニ硫黄谷薩摩ニ湯ノ浦炭酸泉等アリ

第七章 氣候誌

氣候ハ最モ複雑ナル諸原因ノ相關シテ生シタル結果ニシテ緯度ノ高低土地ノ形勢洋流ノ寒暖及ビ風ノ方向空氣ノ乾濕雨雪ノ多寡等皆之レニ關ス

本邦ハ北緯二十四度六分ヨリ全五十度五十六分ニ至ルノ間ニ散点セラル群島ナレバ其位置ハ温帶地中ニアリ從ツテ氣候一般ニ温和ナレモ斯ク南北二十五度余ノ間ニ延長スルヲ以テ南北大ニ其差違アリ且ツ西北一葦水ヲ隔テ、亞細亞大陸ノアルアレハ從ツテ其氣候ノ感化ヲ受ケザルヲ得ス抑亞細亞大陸ニハ中央ニ廣大無邊ノ砂漠アリ夏季ハ太陽ノ温熱ヲ受ケテ驚クベキ高熱度ヲ呈シ冬期ハ之レニ反シテ西北寒風ノ爲メニ大ニ冷却セラル、ガ故ニ寒暑ノ差甚多ク且冬期永ク平均温度ハ他ノ全緯ノ地ニ比シテ低下ナリ



本邦ニ在リテモ此氣象ニ感化セラレテ寒暑ノ差甚シク冬期永ク平均  
 温度低下ナリト雖幸ニ黒潮ノ暖流アリテ殆ンド其全海岸ヲ環流スル  
 ガ故ニ大ニ其氣候ヲ平和ナラシメ今ノ温度ヲ保ツナリ今本邦ノ温度  
 ナ以テ西一葦水ヲ隔ツル大陸海岸ノ支那朝鮮西比利亞黒龍江等諸邦  
 ニ比スレハ大ニ其差違アルヲ見ルナリ

地名	一年平均	一月	八月	寒暖ノ差
長崎	一五、七	五、六	二六、九	二一、三
上海	一五、二	三、五	二七、〇	二三、五
札幌	七、〇	零下五、八	二一、二	二七、〇
ウラジチストク	三、七	零下一六、〇	一九、八	三五、八

右ノ表ハ大率全緯度ノ地ヲ比較シタルナリ以テ本邦ノ大陸ヨリ温暖  
 ニシテ寒暖其差ヲ甚シフセザルヲ見ルベシ然レモ之ヲ全緯度ナル合

衆國西部及ヒ歐羅巴南部ノ諸州ニ比スレハ尙ホ温度ノ頗ル低キヲ見  
 ルナリ

翻ツテ本邦東西岸ノ温度ヲ比較スルニ北緯三十六度以北ハ東岸ヨリ  
 モ西岸ノ方温暖ニシテ以南ハ西岸ヨリモ東岸ノ方温暖ナリ是レ亦洋  
 流ノ感化ニヨリテ生スル結果ニシテ北部日本ノ西岸ハ「リマン」寒流ヲ  
 距ルヲ其從ツテ感化ヲ受クルヲ少ナキ對馬暖流ハ其海岸ニ接シテ北  
 流シ東岸ハ親潮寒流ノ迫流スルアルガ故ナリ彼ノ新潟ハ東京ヨリモ  
 遙カニ北方ニアリテ尙殆ント同温度ヲ保ツハ之レガ爲メナリ  
 然ラハ則チ南部日本ニアリテ東岸ヨリ温暖ナルハ如何兩側同一ノ暖  
 流ニ洗ハル、ニ非ズヤトノ疑問ヲ生スベシ此疑問ヲ解スルニハ地勢  
 ノ如何ヲ察セバ可ナラン抑モ日本ニハ東北ヨリ西南ニ連亘セル脊梁  
 山脉アリ此山脉ハ西北寒風ヲ遮ギリ又東南暖風ヲ絶ツノ障壁ナリ此



障壁ニヨリテ東岸ヲ温保シ西岸ヲ寒冷ナラシムルハ明白ノ理由ニシテ北部日本ニアリテモ洋流ノ感化ナキカ或ハ同性ノ洋流ニ洗ハル、時ハ必ス同一ノ結果ヲ生スルナルベシ

又海岸地方ト内地トハ温度ニ差違アルヲ前已ニ之ヲ述ベタリ即チ海岸地方ハ内地地方ヨリ寒暖ノ差少ナク平均温度ハ少シク高シ

本邦ニアリテ夏冬推移ノ時限ハ北部ヨリ南部ニ進ムニ從ヒテ益長ク隨テ冬季益々短縮ス冬季ヨリ夏季ニ遷ルハ大率四月ニアリ故ニ本邦ノ冬季ハ頗ブル長シ中部地方ハ六ヶ月ニ亘リ北海道ニテハ七ヶ月ニ亘ル

今本邦各地ノ温度ヲ按スルニ (明治廿五年) (一)ハ零下ナリ

地名	平均	最高	全上月日	最低	全上月日
那覇	二二、九	三三、八	八、三	七、八	一一、三〇

地名	平均	最高	全上月日	最低	全上月日
鹿兒島	二二、九	三三、八	八、三	(一) 七、八	一一、三〇
高山	一五、四	三五、九	九、四〇	(一) 六、五	一一、三三
岡山	一四、二	三四、二	九、四〇	(一) 五、九	一一、三〇
大阪	一四、七	三五、四	七、二一	(一) 四、三	一一、三三
名古屋	一四、一	三五、七	八、一七	(一) 六、四	一一、二七
東京	一四、〇	三四、四	八、一六	(一) 六、八	一一、三三
金澤	一三、〇	三五、三	七、三三	(一) 七、二	一一、三三
青森	九、一	三三、七	九、八〇	(一) 二、五、一	一一、二五
宗谷	四、九	二七、九	七、二〇	(一) 二、八、九	一一、五〇

(氣壓) ハ空氣ノ寒暖土地ノ高低及ヒ水蒸氣ノ多少ニ依リテ差異ヲ生スルモノニシテ寒地ハ暖地ヨリモ高ク高地ハ低地ヨリモ低シ故ニ一ケ年間ニ通シテ氣壓ヲ檢スレハ七八月頃ハ最低ニ達シ漸ク上リテ遂ニ十二月頃ニ最高氣壓トナリ夫レヨリ又漸次ニ減退ス又高地例へハ山頂ニ登ルカ或ハ輕氣球ニ乘リテ天上ニ昇ル時ハ呼吸ニ不穩ヲ感



シ時トシテ鼻口等ヨリ出血スルコトアリ是レ氣壓ノ低減シテ身体ノ内外不平均ヲ生スルガ故ナリ又曇天若シクハ降雨ノ前ニ不穩ヲ感スルハ氣中ニ水蒸氣多ク氣壓ノ減少セルニ歸因セルモノナリ本邦ノ平均氣壓ハ大率七百六二耗ニシテ最寒ノ時ハ七百六十四耗最暖ノ時ハ七百五十八耗ナリ

左ニ各地方氣壓表ヲ掲シ (明治二十五年)

地名	平均	最高	全上月日	最低	全上月日
那覇	七五九・七	七七三・〇	一一三	七二〇・五	九五
鹿兒島	七六一・〇	七七五・三	一一三	七四一・四	一一二・四
高知	七六一・〇	七七四・八	一一三	七三三・〇	七三三
岡山	七六一・五	七七五・九	一一三	七三・七六	七三三
大阪	七六一・二	七七五・二	一一三	七三三・四	九一三
名古屋	七六〇・九	七七四・七	一一三	七四〇・七	一一二・四

東京	金澤	青森	宗谷
七六〇・四	七六一・二	七六〇・〇	七五八・一
七七四・七	七七五・一	七七二・五	七七二・二
二七〇	一一三	一一三	二四〇
七三八・八	七三八・一	七四〇・一	七三七・八
一一二・四	九一三	四二〇	三二一三

(風) ハ空氣ノ運動ニシテ氣壓ニ不平均ヲ生スルヨリ起ルモノナリ而シテ山岳ハ大ニ其方向ヲ變換セシムル力アリ本邦ニハ四周寒暖ノ二洋流アリ且山脈一面ニ連亘スルガ故ニ風向自ラ正整ナラスト雖モ各地亦自ラ定マレル方向アリ

東北貿易風ハ本邦各地ニ如何ナル影響ヲ生スルカヲ見ルニ小笠原島琉球諸島ハ常ニ其影響ヲ受ケ十月頃ニ至レバ四國中國畿内迄モ北延シ日本海ニアリテハ更ニ北海道ノ西岸ニ至ルマテ其影響ヲ受クト云フ然レモ毎年夏季即チ四五月頃ヨリ九月頃ニ至ルマテハ印度洋ニ起レル氣候風ノ感化ヲ受ク但シ其風向南西風ナルベキニ日本ニアリテ



東南風或ハ南風トナル所以ハ其風向ノ中心タル亞細亞大陸ノ熱地北西ニ當レルヲ以テ西南風ハ之レニ向ヒシトテ南東風或ハ南風トナルナリ而シテ日本海ニハ東南風多ク太平洋ニハ南風多ク冬期ニ至レバ北風又ハ西風多ク北風ハ亞細亞大陸北部ノ寒地ヨリ來レルモノニシテ甚寒冷ナリ但シ日本海暖流ノ爲メニ大ニ其度ヲ減セラル且其方向モ少ク變ゼラル

概スルニ本邦ハ西風又ハ北西風最多シ其原因ハ東南太平洋暖流ノ蒸發盛ニシテ多ク低氣壓ヲ呈スルニヨレルナリ四季ニツキテ其風向ヲ驗スルニ春ハ西風多ク北風之ニ次キ南風北西風之レニ次キ南東風最少ナシ夏ハ南風多ク東風西南風及ビ西風之レニ次ギ西北風最少ナシ秋ハ北風最多ク西風東風及ビ北西風之レニ次ギ南西風最少ナシ冬ハ西風最多ク北西風及ビ北風之レニ次ギ其他ノ風向ハ大ニ減却ス左ニ

明治二十五年中各地ニ起レル風向觀測回數表ノ概要ヲ掲グ

地名	北	北東	東	南東	南	南西	西	北西	西靜	穩	最
那覇	四七七	四二八	二六五	二三八	一八三	一七七	六六	一〇八			北
鹿兒島	四七〇	四五六	二二五	一四八	八〇	八六	一一五	三五二			北
高知	一〇六	五七	一三三	二五九	八二	九三三	一九二	一六九			西
岡山	二六七	五三四	二二八	一〇四	八八	二〇八	三九七	一五〇			北東
大阪	一七六一	二五五一	三三三	一一二	一七七	六六七	二七八九	八九二			北東
名古屋	一七八〇	二九一	二〇五	六七九	八七七	五四二	六一九	三〇五八			北西
東京	二〇〇一	五二八	四五二	二二八	一五四四	三三三	二五四	二五〇〇			北西
金澤	一四六	七九	三二七	五五三	一〇四	二二二	一八四	二六〇			北東
青森	一七八	一四五	一三九	一一九	一九六	四四一	四五三	二九一			西
宗谷	八八	一八九	三三三	一七九	二四一	四四三	四二三	二四八			西南

本邦ニ於ケル颶風ハ南洋ヒリツピン諸島ノ東南部或ハ支那海ニ起リ北西ニ進ミ支那ニ入り朝鮮ニ出デ以テ本邦ニ達スルモノアリ或ハ群



島ヨリ直ニ東海ヲ經テ本邦ニ到ルモノアリ或ハ直チニ我南海ヲ衝ク  
 幸以テ其方向固ヨリ一定セズ而シテ颶風ノ起ル時季ハ毎年八九月頃  
 ナ多シトス元來海水ハ陸地ヨリモ熱ヲ受クルヲ遲キヲ以テ八九月ノ  
 交ハ甚尤モ温暖ナル時ニシテ海水ノ蒸發多シ其凝縮スルニ際シテ潛  
 熱ヲ發散シ空氣ニ附與スルガ故ニ空氣ハ益々上昇シテ甚シキ低氣壓  
 ナ生スルニヨルナリ暴風ニ先チテ大雨アルハ人ノ知ル處ナリ而シテ  
 彼ノ農民ノ尤恐ル、二百十日ハ八九月ノ交ナリ  
 又本邦ニ於テ東太平洋岸ハ西日本海岸ヨリ颶風ノ害ヲ生スルヲ多シ  
 是レ蓋シ黒潮ノ暖流アルガ故ナランカ其速力ハ概シテ一時間二三里  
 乃至十二三里ニシテ二十里以上ニ出ツルモノハマレナリ  
 (濕氣及ビ雨) 本邦ノ空氣ハ常ニ多量ノ濕氣ヲ含有シ殆ント世界ニ冠  
 タリ就中春夏ノ交最多シ是レ夏期ニハ濕氣ヲ含有セル東南太平洋西

ノ空氣吹キ來ルガ故ナリ  
 空氣中ニ濕氣多キハ雨ノ多キ主原因トス故ニ洋海ニ接近シテ其濕風  
 ナ受ケ殊ニ季候風ノ影響ヲ受クル地ハ多量ノ雨ヲ降ス但シ水蒸氣ハ  
 之ヲ凝結セシムル冷氣ニ過ギザレバ雨トナラザルガ故ニ其主原因タ  
 ル高山峻嶺ノ横ハルハ大ニ雨ヲ降ラスニ好境遇ナリ本邦ノ地勢ハ是  
 等諸原因ヲ享受スルガ故ニ雨量ノ多キハ固ヨリ其處ナリ  
 各季ニツキテ其雨量ヲ測ルニ温暖ノ候ニ多量ニシテ寒冷ノ候ニ少量  
 ナリ十一月ヨリ翌年三月ニ至ル寒候五ヶ月間ハ西北乾風ヲ受クルガ  
 故ニ雨量少ク乾燥期トナリ其他ハ凡テ陰濕期ニ屬シ雨量多シ殊ニ六  
 月ハ梅雨ト稱シ陰雨殆ント一ヶ月ニ亘ルヲアリ是レ多量ノ濕氣ヲ含  
 有セル季候風ノ吹キ來リテ北東貿易風ニ觸レ凝結シテ雨トナリ地ニ  
 下ルガ故ナリ故ニ此風ニ關係ナキ北海道地方ハ乾濕ノ氣節ナク年中



大率全雨量ナリ今左ニ明治十六年ヨリ二十五年ニ至ル十ヶ年間ノ各地雨量ノ平均表ヲ示スベシ

月	長崎	和歌山	廣島	東京	金澤	函館
一月	六六三	四二五	三七九	四三七	二九〇六	五八〇
二月	八〇四	六九一	六四六	六二三	一七六五	三七五
三月	一四〇四	九五〇	一〇五九	一二七〇	一七四四	六〇二
四月	二二八二	一五二八	二〇六三	一二三九	二〇〇四	七八二
五月	二二八四	一三〇二	一七二六	一六六三	二四五五	七〇四
六月	三七九七	二二九八	二五二〇	一七三五	一八八一	九二三
七月	二三九七	一五一六	二二六〇	一三一六	一八二〇	一〇四八
八月	二二二六	八二七	八三二	一〇四四	一二〇九	一一三一
九月	一七六〇	二〇七七	一六四八	一七八〇	一九一三	一八〇三
十月	一二五五	一七七九	一一四一	一八三三	二〇三二	一〇〇三
十一月	九一二	一〇九〇	七九七	一一三五	二九一六	一〇五五
十二月	九五八	六二九	五三二	三八三	三八六二	七六四
合計	二〇五四二	一五〇一三	一五六〇三	一四四四七	二五五〇六	一〇八七二

本邦ニ於テ雨量ノ多キ地方ハ北陸道殊ニ加賀能登越中邊及ヒ東海道以西ノ太平洋海岸殊ニ紀伊土佐日向大隅邊ノ海岸トス之レニ反スル少雨ノ地ハ奥羽ノ東岸北海道ノ東南岸千島等トス是レ北陸道ノ沿岸ハ日本海ノ温風ヲ受ケ山脊ノ冷氣ニ觸レテ雨トナリ此地方ニ降下シ西部太平洋沿岸ノ地ハ黒潮ノ濕風ヲ受ケテ亦山脊ニ凝縮セラレ以テ此地方ニ降下スルニ因リ北部東海岸ハ親潮ニ沿ヒ且ツ氣候風ノ感化ヲ受ケザルニヨルナリ

瀬戸内海沿岸地ノ降雨少ナキハ四國山系ニヨリテ南方ヨリ吹き來ル温風ヲ遮ラレ中國山系ニヨリテ北方ヨリ來ル温風ヲ絶タルニヨルナリ

(雪) 雲ノ凝縮シテ雨滴トナル前ニ氷結シ相附着シテ生ジタルモノナ



リ本邦ニ於テ雪ノ最モ多量ナルハ日本海岸殊ニ越後以北ノ諸國ニアリ是レ此地方ハ冬日北西寒風ヲ受クルヲ多ク其寒風ハ日本海面ヲ通過スル際多量ノ水蒸氣ヲ得テ該地方ニ來リ中央脊梁山脈ニ觸レ凝リテ雪トナリ降下セルニヨルモノニ其山脈ノ南西迄ハ及ブ能ハズ以テ北面ノミニ降ルナリ明治二十五年ノ統計ニヨルニ青森ハ百二十四日秋田ハ百十日新潟ハ八十八日金澤ハ七十三日ノ降雨アリ此地方ノ降雪ハ毎年平地ニテモ三四尺ニ及ビ山間ニ在リテハ二三丈ニ達スルヲ常トス夫レヨリ西下ノ關ニ至ルマテ漸次減少シ境邊ニ至レバ六十九日下ノ關邊ハ三十七日ナリ其量甚少ナシ

奥羽ノ東岸ハ他ノ地方ヨリモ降雪多シト雖モ其西岸ヨリハ少ナシ石巻ハ五十八日宮古ハ四十五日ナリキ

東海道地方ハ降雪大ニ減シ其量モ亦少ナシ即チ銚子ハ四日東京ハ十

五日沼津ハ五日濱松ハ二十三日津ハ二十九日ニシテ其積ルヲモ大概二三寸一尺ニ上ルヲ稀ナリ是ヨリ西南海西海二道ニ至リテ一層減少シテ宮崎那覇ノ如キハ一回ノ降雪モナカリキ

今左ニ各地方ノ雨量及ビ天氣日數ノ概表ヲ掲グ

地名	雨雪總量	二十四時間		日快
		最	多	
那覇	二七五二三			六
鹿兒嶋	二二四四一			三九
高知	二六六五五	一八六、八	七、二五	八一
岡山	一、一七五、九	一七七、四	七、二三	三七
大阪	一、四六九、四	六二、〇	六、二三	四九
名古屋	一、六五三、三	七六、七	九、二三	三四
東京	一、七一五、一	八四、五	五、二五	五七
金澤	二、五五九、九	六七、九	六、二三	一四
青森	一、二三五、〇	八六、〇	七、二八	二七



根	宗	谷	室
一〇六四	一三〇一	一一一四	九四〇
七三〇	八八〇	一六	二五

### 第八章 天産ノ分布

本邦ノ地勢ヲ按ズルニ南ハ熱帶ニ迫リ北ハ寒帶ニ接スルガ故ニ殆ソ  
 三帶ノ生物ヲ包有ス且ツ南ニ熱帶地方ヨリ來ル暖流アリ北ニ寒帶  
 地方ヨリ來ル寒流アリ一葦水ヲ隔テ「カムチヤツカ」アリユーシアン  
 群島アリ支那朝鮮アリ生物ハ是等ヲ介シテ寒熱兩帶ヨリ亞米利加大  
 陸ヨリ并ニ亞細亞大陸ヨリ入り來ルガ故ニ動植物ノ蕃殖極メテ夥シ  
 シ其種類モ亦甚多シ現今既ニ發見セラレタル顯花植物ハ實ニ百三拾  
 九科(殆ソ全數ノ三分二)ニ及ビ動物ノ如キモ其多種ナル實ニ他國ニ  
 其例ヲ見サル所ニシテ「テイソ」氏ハ東京平原ニ於テ昆虫ヲ採集スルモ

能ク英國全所産ノ種類ヲ得ヘシト云ヘリ

今本邦ニ於ケル植物分布ノ狀ヲ察スルニ薩摩大隅ノ南端小笠原島等  
 ニハ熱帶地方ノ植物アリ東山北陸北海等諸道ノ高山ニハ寒帶ノ植物  
 アリ其他ノ地方ニハ多ク中帶ノ植物アリ農商務省ノ調査ニヨレバ之  
 ヲ左ノ五帶ニ區別ス其名稱ハ其帶中尤モ繁植セルモノ、名ヲ擧ゲタ  
 ルナリ

第一榕樹帶 此帶ハ熱帶地方植物ノ生育セル所ニシテ榕樹ハ元ト印  
 度亞非利加等ニアリ廣大樹下ニ七千人ノ兵士ヲ屯セシムルニ足ル程  
 ノ大樹ヲリ本邦ニ於ケル此帶ハ尤モ温暖ナル地方ニアリテ下部ハ海  
 岸ニ至リ上部ハ第二黒松帶ニ界ス其區域甚狹少ニシテ僅カニ薩摩大  
 隅日向ノ南岸及ビ其諸島嶼土佐ノ南端并ニ其小島等ヲ包有スルソ  
 從テ其種類モ多カラズ榕抄羅蒲桃箱臭橙等凡ソ二十三種ニシテ大率



常緑葉ナリ

第二黒松帶 此帶ハ本邦温暖ノ地ヲ占ムルヲ以テ其範圍甚廣ク下部  
 ハ第一帶ヨリ上部ハ第三帶若クハ間帶ニ界シ本州ニアリテ三千尺以  
 上ノ高地ニ達スルヲ少ナシ南端九州ノ第一帶ニ接シ東北磐城能登ニ  
 入リ本州四國九州ノ全半ヲ占ム其生育セル樹木ハ黒松樟檜椎等四十  
 九種ヲ有シ常緑樹多ク落葉樹ハ只七種ヲ有スルノミ  
 第二第三兩帶ノ間ニ間帶ト云フモノアリ此帶ハ他ノ五帶ノ如ク一定  
 セル區劃アルモノニアラズ或ハ平野岡陵甚廣クシテ高山ノ海岸ヲ去  
 ルヲ遠ク第二帶ノ植物既ニ消滅シテ第三帶ニ至ルマテニ尙其間ニ一  
 帶ヲ生ズル場合(武藏兩野ノ如ク)若クハ高山峻嶺四方ヲ圍繞シテ中間  
 ニ平坦ノ地ヲナシ(甲斐ノ如キ)或ハ第二第三兩帶ノ中間ニ濫伐ノ結果  
 ヨリ從來ノ樹種木ニ變換セシ場合等ハ此間帶ヲナスモノナリ

此帶ノ大ナルモノニアリ一ハ相摸武藏常總兩毛岩代陸前陸中ニ亘ル  
 モノニシテ一ハ越前加賀能登越中越後羽前羽後ニ連ルモノナリ其他  
 甲斐ノ内部及ヒ佐渡ニモ之レアリ其樹種ハ赤松枹櫟等喬木凡七十種  
 アリ

第三帶山毛榉帶 此帶ハ第二帶ニ次キテ廣大ナル區域ヲ有シ稍寒冷  
 ノ地ヨリ下部ハ第二帶若クハ間帶ニ接シ上部ハ第四帶ニ達ス重ニ東  
 海道ノ北部東山道及ヒ北陸道ノ東部ヲ占メ畿内中國四國九州ニハ其  
 度甚著シカラス此帶ニ蕃殖スル植物ハ山毛榉アノキ七葉樹ナナハシ檜ヒノキ羅漢ロマン柏等ノ  
 喬木凡五十五種アリ落葉樹尤多クシテ常緑樹ハ僅カニ六種ニ過ギス  
 又竹ハ此帶以上ノ寒地ニ生ゼス  
 第四白檜帶 此帶ハ寒冷ノ地方ニアリテ區域甚々狹シ下部ハ第三帶  
 ニ接シ上部ハ第五帶ニ界ス畿内以西ニ於テハ唯阿波ノ劍山伊豫ノ石



樺山ニ之レアルノミ東海東山北陸三道ニ於テ高山峻嶺ニ之レアリ即  
 テ越中越後信濃飛騨甲斐上野下野ノ山地ニ連亘シテ一帯ヲナス樹種  
 ハ白檜<sup>タケモミ</sup>ノ二種ニ限ル皆常綠樹タリ  
 第五偃松帶<sup>ハクマノミ</sup>此帶ハ極寒ノ地方ニアリテ上部ハ樹木減少シテ遂ニ消  
 滅ス故ニ此レ樹木生育ノ極帶ニシテ僅カニ東海東山北陸三道ノ高嶺  
 ニ存スルノミ此帶ニ生ズル樹木ハ唯偃松ノ一種ニ過キズ常綠ニシテ  
 葉ハ五針攢生ス  
 右各帶ノ上界ヲ見ルニ第一帶ハ薩摩大隅日向土佐等ノ一小地方高サ  
 凡七八百尺ニアリ第二帶ハ第一帶地方ニ於テハ三千七八百尺ニアリ  
 九州北部ニ於テハ二千一二百尺中國ノ南部ニ二千尺東海道南部ハ一  
 千五六百尺ニ下リ磐城ニ至リテ遂ニ其蹟ヲ絶ツ如ク南方ヨリ北方ニ  
 傾斜ス

第三帶ノ最高界ハ伊豫ニアリ六千尺ニ達ス峻遠地方ニハ五千六七百  
 尺甲信地方ニハ五千尺奥羽地方ニハ四千七百尺乃至三千五百尺トナ  
 リ遂ニ北端ハ三千二百尺トナル第四帶ノ最上界ハ駿河ニアリ八千三  
 百尺ニ達ス武藏両毛ニアリテハ七千九百尺乃至七千四百尺陸羽ニア  
 リテハ五千三百尺ニ降り陸奥ニ四千八百尺トナル第五帶ノ上界ハ之  
 ヲ測ルヲ得ス

動物ノ分布ニツキテハ本邦未ダ一定ノ學說アラズ或ハ琉球小笠原諸  
 島ノ如キチ東洋帶ナル東印度諸島ニ屬シ其動物本土ト大ニ異ナルヲ  
 以テ之ヲ一區トシ對馬ハ内地ニ生セサル朝鮮雉子等ヲ産スルヲ以テ  
 亦一區トシ本州ニアリテハ尾張灣ヨリ敦賀灣ニ一線ヲ劃シテ二區ト  
 ナスベク北海道ハ北米ノ北部及ヒ西比利亞等ト同性質ヲ有スル一區  
 トナスベシ等說クモノアリト雖未ダ以テ確定セルモノニ非ズ要スル



ニ温帯産ノ禽獸虫魚ハ全國到ル處之アリ飛魚エラフウナギ大蝙蝠蟻  
 龜瑤瑁珊瑚ノ如キ熱帯性動物ハ琉球小笠原諸島并ニ東海北陸ノ暖流  
 ニ洗ハル、邊ニアリ鱒鱒鮭鮭臘虎羆白熊帶豹臘肭獸ノ如キ寒帯性動  
 物ハ奥羽以北北海道千嶋邊ニ住ミ又深山ニアラザレハ住セザル松鳥  
 麕鹿等ノ如キモノモアリ  
 鐵物ノ播布ハ本邦最モ豊カニ就中富メルモノチ銅トス鉄金銀之レニ  
 次ギ頗ル多量ノ産出アリ其他錫鉛蒼鉛安質母尼滿奄砒屬丹礬綠礬明  
 礬石炭石油硫黃石黃陶土類土瀝青大理石山塩粘土雲母蠟石等諸所ニ  
 散在ス

後編

第一章 人誌

(人種) 本邦人ハ蒙古人種ニ屬スト云フコトハ一般ノ通論ニシテ今更疑  
 フヘキニアラザレド仔細ニ之ヲ觀察スレバ其内又數多ノ小別アリ之  
 レニツキテ學者ハ種々ノ說ヲナシテ殆ント歸一スル處ヲ知ラス今諸  
 大家ノ說ヲ折衷シ多年ノ實驗ニヨリテ立論セル醫科大學教師「ベルツ」  
 氏ノ日本人体格論ニ依レバ本邦ニハ日本人琉球人アイヌ人ノ三種ア  
 リ日本人中又二種ハ別アリ甲ハモンゴリヤ様人種ニシテ朝鮮支那上  
 流社會ノ人物ニ肖テ全身瘠形ニ顔長ク目尻揚リ鼻隆ク口締リタル上  
 流社會ニ多ク見ル所ニシテ是レ恐ラクハ朝鮮近傍ヨリ出雲ニ漂着セ  
 ル彼ノ須佐之男尊ノ末流ニ屬スルモノナランカ其二ハマレイ人種ニ



似オルモノゴリヤ様人種ニシテ身体肥大脊骨曲リ頭短カク顔丸ク鼻低ク口大ナル人種ニシテ九州ニ多ク見ル所ナリ是レ恐クハ高千穂峯ニ天降りセシ天神ノ末裔ニシテ高千穂人種トモ稱スヘキカ此二人種ハ元來頗ル差異アルモノナリシカ互ニ雜居シテ等シク日本人ト稱シ相結婚シタルカ故ニ現今殆ント其區別ヲ認識シ難キニ至レリト雖九州ニハ尙純粹ノ高千穂人多ク中國ニハ純粹ノ出雲人多シト云フヘキナリ東北地方ニハ又一種異ナリタル人種アリ此人種ハ右二人種トアイヌトノ雜種ナルベシ口碑並ニ歴史ニ徴シテ其然ルヲ知ルナリ

(本邦人ノ階級) ハ四等ニ分レ皇族華族士族平民ト云フ皇族ハ最上級ニ位シ累世ノ天皇ハ皆此中ヨリ出デ尊嚴犯スヘカラサルモノナリ華族ハ祖先以來久シク朝家ニ隸屬シタル所謂公卿ナルモノト維新前各國ニ散在シタル大名ト國家ニ大勳アリシモノトヨリ成リ其祖先ノ出

所ニヨリテ之ヲ皇別神別外別ノ三種ニ大別ス皇別三十四神別二十五外別五合計七十六類アリ士族ハ維新前幕府或ハ諸侯ニ事ヘシ所謂武士ナルモ大ニシテ其他ハ凡テ平民トス但シ平民中舊來穢多ト稱シテ最下級ニ位シ農工商トド、平等ノ交際ヲナシ得サリシモノアリ或ハ之レヲ新平民ト稱ス

右四階級ノ中皇族ト華族トハ政事上特別ノ權利ヲ有スト雖社交上ニ至リテハ皇族ヲ除クノ外三族共ニ甚シキ差違ナシ殊ニ士族ト平民トハ唯名義上ニ其階級アルノミ實際平民ニ富豪ノモノ多キガ故ニ實力ハ却ツテ乙ニアルモノ、如シ現今政治上并ニ文學上ニ士族ノ勢力アル所以ノモノハ唯從來ノ境遇之ヲ然ラシメタルノミ將來此等ノ勢力漸次ニ平民ニ歸セシト殆ント疑フヘカラサルナリ

(人民ノ氣質) 今各地ニツキテ氣質如何ヲ見ルニ概シテ都會ノ人ハ活



敏捷ニシテ美衣美食ヲ好ミ交際ニ長シ閑雅風流ヲ尊ヒ而モ輕躁ニ  
 シテ大事業ヲ起スヲ能ハズ之ニ反シテ山間僻陬ノ人ハ舉止遲緩ニシ  
 テ粗衣粗食ニ甘シシ禮節ニ嫻ハスト雖亦深毅木訥義ヲ貴ヒ情ヲ重シ  
 シ能ク忍耐シテ大事業ヲナスノ資アリ海岸ノ獵師ハ金錢ヲ輕シ山  
 間ノ農民ハ貯蓄ヲ好ム  
 衣服髪容ノ複雜ナルハ古來ヨリ甚シカリシカ近來歐米各國ト交通開  
 ケシヨリ一層ノ複雜ヲ來シ就レカ是就レカ非ナルヲ知ラス  
 東京ノ家屋ハ宏大堅牢ナルモノ多ク市街雜沓甚シト雖又清潔ニシテ  
 健康ニ適ス市民ノ人情ハ概テ伶俐ニシテ機敏ヲ貴ヒ古來豪俠ノ風ア  
 リ總テ美味膏粱ヲ嗜ム京都ハ閑雅幽靜ニシテ優美ノ風アリ家屋ノ構  
 造モ多クハ古体ヲ存シ一見舊都タルノ感ヲ起サシム殊ニ千有余年ノ  
 舊蹟ノ存スルアリ宮城ノ優雅宏麗ナルアリ所謂本邦人文ノ古体ヲ集

一觀場トスヘキナリ人情ハ温和ナレトモ土地ニ誇ルノ風アリ他  
 邦人ヲ蔑視シテ田舎者ト呼ブ外飾ヲ好ミ殊ニ衣服ヲ飾リテ内節儉ヲ  
 務ム下世話ニ江戸ノ食倒レ京ノ衣倒レトハ是ナリ  
 大坂ハ商業ノ中央地ナレハ市街殷盛ニシテ大廈軒ヲ聯テ倉庫櫛比シ街  
 衢概テ狹ク雜沓甚シ市人ハ商買ニ熱心シ忍耐能ク機ニ投スルヲ務  
 ム但シ人情ハ多ク輕薄ナリ  
 (風俗)又各地方ニツキテ其風俗ヲ見レハ中等以上ノ人及ビ諸種ノ商  
 人ハ一般ニ同様ニシテ甚シキ差違ナシト雖農夫及ヒ他ノ力役社會ニ  
 至リテハ大ニ異ナル所アリ畿内諸國及ヒ關東々北地方ニアリテハ男  
 子ト同シク女子ノ勞働スルヲ多ク或ハ田野ニ耕シ或ハ山林ニ樵ス山  
 陽西海地方ハ大ニ之ニ反ス但シ海岸或ハ島嶼ニ住スル漁夫ノ婦女ハ  
 男子ト同シク力役ヲ取ル文身ノ風習ハ全國下等勞働社會ニ見ル所ニ



シテ北海道土人ハ殊ニ多シ婦女ハ其幼少ノ時ヨリ漸次ニ面部即チ唇ノ周圍左右ノ手背ニ腕ニ黥ス男子ニモ適々手背ニ黥文アルヲ見ル西南諸島沖繩島土民ノ婦女モ亦手背及ヒ指背ニ黥スル風アリ多クハ十七八歳ノ頃ヨリ漸次ニ之レヲ増シ老年ニ至リテハ其文極メテ多ク手背指背ハ勿論二ノ腕ニマデ至ルト云フ

毛髮ハ一般ニ男子ハ散髮ニシテ女子ハ諸種ノ結髮ナリ然レモ往々結髮セルモノヲ見ルヲアリ殊ニ山村海島ノ人ニ多シ北海道土人ハ男女共ニ斷髮ヲ長ク肩邊ニ垂レ木綿又ハ「アツシ」ト稱スル木皮ニテ編ミタル麻布襟ノモノヲ以テ鉢巻スルヲ常トス琉球諸島ノ男子ハ兩簪ヲ用ヒテ束髮スルヲ常トス兩簪ハ士族以上ニ銀製ヲ用ヒ平民ハ鉄製又ハ真鍮製ヲ用フ

(衣服) ハ全國ヲ通シテ綿布ヲ常トシ絹帛綾羅ハ上流社會ニ行ハル、

ノミ毛織布ハ特ニ都邑ニ用ヒラル、ノミ近江若狹信濃以北山間僻邑ニアリテハ農民男女ヲ論セス筒袖筒袴ヲ用ヒ勞働ニ便ス殊ニ袴ハ冬間積雪ノ中ヲ行クニ便ニシテ之ヲ「モツペー」ト稱ス其他一般ノ農民ハ多ク綿織ノ筒袖服ヲ用ヒ男子ハ多ク股引ヲ穿ツ

北海道土人ハ大率「アツシ」ノ衣服ヲ着兼テ獸皮ヲ用フ是亦筒袖ニシテ巾廣ク或ハ左衽或ハ右衽ニシテ一定ノ制ナシ琉球諸島ノ人民ハ多ク麻布綿布ヲ衣或ハ上布芭蕉布ヲ用フルモノアリ濶袖ニシテ長サ大率膝ヲ限リトス但シ女子ハ別ニ長身ノ上衣ヲ着ク衽ハ左右ノ別ナク隨意ニ之ヲ着シ足ハ脛ヲ露シ徒跣ナリ但シ上流社會ノ人ハ等身ノ服ヲ着ケ草履又ハ木履ヲ穿ツ

(飲食) ハ人ノ貧富ニヨリテ差アリ要スルニ本邦人ハ米麥蔬菜魚鳥ヲ好ミ近來獸肉ヲ用フルト多キニ至レリ然レモ山間僻邑ニ至リテハ粟



稗蕎麥豆類野菜木實等ヲ常食トシ其狀見人ニ忍ヒサルモノアリ北海道土民ハ多ク鳥獸魚肉ヲ食ヒ琉球人ハ甘薯ヲ常食トシ蘇鉄ヲ以テ其欠ヲ補フト云フ

(家屋) 田舎ノ家屋ハ一般ニ木造草葺ニシテ煉瓦造瓦葺等少ナシ東北地方ニ於テハ多ク板葺トシ石ヲ載セテ其飛散ヲ防ク且積雪多キ地方ハ柱ノ數稍多キヲ見ル市街ノ家屋ハ其簷突出シテ戸々相連リ雨中ト雖行人ノ傘ヲ用ヒルヲ要セサル様ニ建築セリ是レ冬季積雪中ノ往來ヲ便ニセンタメノ準備ニシテ至極都合ヨキモノダリ關東地方ノ家屋ハ多ク藁葺ニシテ棟上菖蒲ノ種類ヲ植ヘ五六月ノ花候ニハ頗ブル美觀ヲ呈ス常陸鹿島下總銚子地方ノ家屋ハ其屋根上ニ數多ノ貝殻ヲ載セ頗ブル奇觀ヲ呈ス

北海道土民ノ家屋ハ丸木ヲ土中ニ建テ、柱トシ草蔓ヲ以テ之ヲ結ヒ

茅葺等ヲ以テ之ヲ葺ク中ニ床ナク土盤ニ茅葺等ヲ布キテ其上ニ住ス屋外ニ垣アリ垣ニ鹿ノ鬮體ヲ懸ケ其數ノ多少ヲ以テ其家ノ貧富ヲ見ルベシト云フ琉球ニ於テハ風ノ激烈ナル爲メ一般ニ低屋ニノ葺クニ樺色ノ瓦ヲ以シ白堊ヲ以テ之ヲ固ム繞ラスニハ石垣ヲ以シ凡テ堅牢ヲ以テ主トセル者ノ如シ室内ノ景况ニ至リテハ畧本州ノ農家ニ等シ(人口) 本邦ハ地勢氣候等万邦ニ卓越セル處アレハ人口ノ増殖モ亦遠ク他邦ニ勝レタル處アリ古代ノ統計ハ到底信スヘカラサルヲ以テ暫ク之レヲ措キ徳川時代ニ於テ享保六年ニハ二千六百六万五千四百二十二人アリシト云ヒ延享元年ニハ二千五百六十八万二千二百二十二人寛延三年ニハ二千五百九十一万七千八百三十八人寶曆六年ニハ二千六百六万二千八百三十八人文化元年ニハ二千五百六十二万九千九百五十七人アリシト云ヒ明治五年ニ至リテハ三千三百一十一万八千二百五十八人ト



ナリ全十二年ニハ三千五百七十六万八千五百八十四人全十六年ニハ  
 三千七百一十七万三千三百二人トナリ全二十二年ニハ四千七万二千二十  
 人トナリ全二十四年ニハ四千七十一万八千六百七十七人トナレリ其  
 中男ハ二千五十六万三千四百十六人女ハ二千十五万五千二百六十一  
 人ニシテ女ハ男ヨリ遙ニ少ナシ其故ハ男子ノ位地大ニ女子ヨリモ高  
 キニ依ルモノト思ハル西洋諸國ニテ女子ノ男子ヨリ少ナキハ他境ニ  
 移住スル人男子ノ方多キニヨルナリ然ルニ長壽ヲ保ツモノハ却ツテ  
 女子ニ在リ同年ノ統計ニヨルニ百才以上ノ男子ハ二十五人ナルニ女  
 子ハ八十六人アリテ女子ノ男子ニ勝ルヲ三倍以上トス  
 今族籍ニヨリテ人口ヲ調査スルニ左ノ如シ

華族 男一八二九 女二〇一五  
 士族 男一〇〇七二八 女一〇〇二二七八  
 平民 男一九五五二三三五 女一九一四八六三四

國別ニヨリテ人口ヲ擧ケレバ

山城	四九七、二二一	近江	六八五、四九一	丹波	三三五、九四七
大和	五〇五、二四五	美濃	八二六、五〇六	丹後	一七四、六一三
河内	二八二、二四八	飛騨	一一〇、六六一	但馬	二二七、六二三
和泉	二四六、九〇一	信濃	一、一五七、五三一	因幡	一八〇、七〇〇
攝津	九七〇、七三〇	上野	七〇〇、九六九	伯耆	二二五、八〇三
伊賀	一〇六、二六一	下野	七〇六、〇二九	出雲	三六三、四〇七
伊勢	七〇一、二七五	磐城	四八七、一六二	石見	三〇八、一三二
志摩	五八七、三三〇	岩代	五六六、九〇一	隱岐	三四、三一
尾張	九〇一、二三七	陸前	七二二、七八四	播磨	七三八、五八三
三河	五八七、三四五	陸中	六二六、六二二	美作	二五三、七二〇
遠江	四八六、二一九	陸奥	五九九、二五五	備前	三六四、六〇七
駿河	四六三、五一	羽前	六八五、三一六	備中	四六四、三八一
甲斐	四六四、三八〇	羽後	七六三、四六七	備後	五四五、六三二



伊豆	一八四、三二二	若狹	九二、一五二	安藝	七九八、五三八
相模	四六八、一三六	越前	五二六、一九二	周防	五六六、七二四
武藏	二、六五六、九六四	加賀	四六三、〇八三	長門	三七三、三二四
安房	一六七、六八八	能登	三二〇、三〇九	紀伊	七一五、三二七
上總	四七五、八四一	越中	七七六、四六七	淡路	一九〇、二二七
下總	七九五、二三八	越後	一、六三六、七六八	阿波	六九〇、二九五
常陸	八一九、九四八	佐渡	一一一、七四四	豊後	六五三、六六九
讚岐	六七九、〇一五	筑前	五三七、五一四	肥前	一、二五七、六五二
伊豫	九三九、五四三	筑後	四六九、三六六	肥後	一、〇六四、九〇三
土佐	五七八、五四四	豊前	三七六、四一八	日向	四四三、九〇七
大隅	四一三、七〇一	渡島	一三三、九六六	日向	一一、九一八
薩摩	五七五、三二九	後志	六六、九八六	十勝	二、二一六
壹岐	三五、七一七	石狩	五三、五七二	釧路	八、四二一
對馬	三一、八〇六	天鹽	六、八六〇	根室	八、二五九
琉球	四一〇、八八一	北見	四、五六五	根室	八、二五九
渡島	一三三、九六六	膽振	一六、四八二	千島	八六三
合計		合計		合計	四〇、七八、六七七

各道各島ニツキテ人口ノ疎密ヲ見ルニ畿内ハ最モ密ニシテ一方里ノ人口五千六百十一人次ハ淡路島ニシテ五千八百八十四人アリ次ハ壹岐島次ハ東海道次ハ山陽道琉球北陸道南海道ニシテ北海道ヲ最寡トス一方里人口僅カニ五十二人タリ

(宗教教育) 古來本法民心ヲ支配セル教法ニ神道佛教儒教及ヒ基督教トアリ神道ハ祖先ヲ崇敬スル念ヨリ起リタル一教ニシテ純粹ノ宗教ト稱スルヲ得ズ何トナレハ此教ニ未來ヲ説クヲナケレハナリ其起原ハ遠ク神代ノ古ニアリ佛教渡來マテハ邦人唯一ノ宗教ニシテ歴代ノ天皇皆政教一致ヲ以テ施政ノ方針トセラレシヲハ史ヲ讀ムモノ、皆知ル處ナリ然ルニ第二十九代欽明天皇ノ世佛教我國ニ渡來シテヨリ人心多ク之ニ嚮ヒ殊ニ奈良朝時代ニハ畏クモ天子ノ三寶ノ奴ト稱シ玉ヒシ等ノ事アリ其勢甚盛ニシテ神道ハ大ニ其力ヲ殺キタリ然レ



トモ神道ハ尙古來ノ國教ナリケレハ敢テ之レヲ消滅セシムルヲ能ハ  
 ス否之ト相繫聯シテ佛教ヲ説クハ頗フル便利ナルモノト思ヒケリ中  
 古ノ名僧空海行基ノ如キ神佛ヲ混合シテ本地垂跡ノ説ヲ去テ某神ハ  
 某佛ノ再生ナリ等ト稱スルニ至レリ  
 是レヨリ先キ第十五代應神天皇ノ世儒教我國ニ入リテヨリ亦人心ヲ  
 感化スルヲ多ク後ニハ佛教ヲモ壓倒スルニ至レリ即チ源平時代ヨリ  
 足利時代ニ至ルマテノ公卿武人等多ク佛法ヲ尊信シタリト雖徳川時  
 代ニ至リテハ士人多ク儒教ヲ信シ一身ヲ處スルニ孔孟ノ教ニ依ラ  
 サルヲナク佛法ハ單ニ百姓町人社會ニ行ハルノミトナレリ徳川氏  
 ノ末世西洋ヨリ基督教入リシカ多クハ之ヲ禁制セシニヨリ甚其勢ヲ  
 逞スルヲ能ハズ神道モ此頃世ニ國學者ト云フモノ輩出シテ稍其勢ヲ  
 振ヘリ明治ノ初メ諸教混雜ノ弊ヲ防カントシ神道ヲ以テ國教トセラ

レシヲアリシカトモ後廢セラレテ今ノ如ク各教名流布セラレ、ニ至  
 レリ

神道ニ神道、黒住教、神宮教、修成教、大社教、大成教、扶桑教、神習教、實行教、御  
 嶽教等ノ諸派アリテ明治二十四年ノ統計ニヨルニ全國神社ノ總數十  
 九万三千一百五十三ニシテ内神宮一官幣大社三十四同中社二十四同  
 小社八別格官幣社二十一神職及ヒ祠官總數一万四千七百人アリ佛教  
 ニ天台眞言淨土臨濟曹洞黃檗眞日蓮時融道念佛法相華嚴ノ十二宗ア  
 リ寺院ノ總數七万一千八百五十九住職ノ總數五万二千五百十一人ア  
 リ基督教ニ新教舊教及希臘教アリ舊教信徒尤多ク新教徒之ニ次ク  
 教育ノ制度ハ中古ノ初メ頃ヨリ設立セラレテ大學國學等アリシカ武  
 乱打續キテ此制モ行ハレス文學ハ唯ニ公卿僧徒ノ手ニ隱匿セル如キ  
 有様ナリシカ徳川時代ニ至リテ江戸ニ昌平校アリ各藩ニ學問所アリ



以テ士人以上ヲ教ヘ百姓町人ニハ寺小屋アリテ兒童ヲ教育シタリシ  
 カ明治ノ聖代ニ及ヒテ西洋式ヲ採用シテ俄カニ整頓セルニ至レリ  
 現今ノ教育制度ハ畧讀者ノ了知セル處ナルヲ以テ茲ニ贅セス唯明治  
 廿四年ノ本邦諸學校教員生徒ノ數ヲ擧ケテ其一斑ヲ示ス

種別	學校數	教員數	生徒數
小學校	公立 二四、六三〇	六八、三七二	三、〇九二、〇九八
	私立 七四四	一、二三六	六一、七一五
尋常師範	四七	六二五	五、一九六
高等師範	二	八七	四八三
尋常中學	公立 四四	六〇一	一〇、九四一
	私立 一〇	一二四	二、二八四
高等中學	七	二六八	四、四四三

帝國大學

此外尙ホ官私立ノ專門學校高等女學校各種學校等一千八百余校生徒  
 十万以上アリ

第二章 政 体

政体ハ古來立君政ニシテ一ノ皇室ヲ仰キ万世不朽實ニ他邦ニ其比ヲ  
 見サル所ナリ中頃政權外戚ニ歸シ或ハ武門ニ移レル等ノ事アリシカ  
 ドモ上一君ヲ戴クニ至リテハ敢テ其變遷アラサリシナリ明治ノ聖  
 代ニ及ヒ東洋諸國ニ先チテ立憲國トセラレ上天皇ハ國政ヲ統治シ内  
 閣諸大臣之ヲ輔佐シ帝國議會之ヲ協贊ス  
 天皇ハ陸海軍ヲ統帥シ文武官ヲ任免シ宣武講和ノ權ヲ掌握セラル而



行政立法司法ノ三權鼎立シテ天皇ヲ戴シ其行政部ハ九省ノ大臣及總理大臣トヨリ成レル内閣ニアリ立法部ハ帝國議會ニヨリテ法律ヲ協贊ス司法部ハ天皇ノ名ニテ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ議會ニ貴族衆議ノ兩院アリ裁判所ニ大審院控訴院地方裁判所區裁判所行政裁判所アリ會計検査院ハ會計ヲ検査シ樞密院ハ天皇至尊ノ顧問府タリ歳入ハ明治二十六年年度豫算額八千四百二十三万五千五百九十一圓ニシテ歳出八千一百八十四万八千五百圓ニシテ國債ハ明治二十五年年度ノ總計二億八千六百三十二万六千三百十六圓アリ

### 第三章 區劃

日本全國ハ山海自然ノ形勢ニ因リテ之ヲ一畿八道ニ分テ更ニ之レテ

八十五國ニ小分ス國ニハ市アリ郡アリ區アリ市町村アリ區ノ數二市四十郡八百四町千二百九十六村一万三千七百八十二アリ而シテ畿道國ノ區劃ハ古昔政區トシテ用ヒラレシニヨリ現今ニ至ルマテ吾人ノ慣用スル處ナレトモ今ヤ只自然ノ區劃トシテ之ヲ見ルノミ少シモ政治的ノモノニアラス別ニ府縣ヲ置テ之ヲ分轄セシム但シ北海道ニ限リ之ヲ政區トシ道廳ト名ツケテ他ノ府縣ト並ヘ稱ス現今一府四十三縣一廳アリ

市制ハ人口二万五千以上ノ都市ニ限リ施行ヲ許スノ制規ナリ但シ北海道及沖繩縣ニハ之ヲ執行セズ又東京京都大坂三市ハ通常市ト異ニシテ中央大都市タルヲ以テ特別市制ヲ布ク

又東京府所管ノ小笠原島根縣所管ノ隱岐長崎縣所管ノ對馬鹿兒島縣所管ノ大島ニハ島廳ヲ置キテ之ヲ治ム



今左ニ各府縣ノ管轄域及ヒ郡市名ノ一覽表ヲ掲ク

東京府

一市東京武藏

麴町區、神田區、日本橋區、京橋區、芝區、麻布區、赤坂區、四谷區、牛込區、小石川區、本郷區、下谷區、淺草區、本所區、深川區

六郡武藏ノ

荏原、東多摩、南豐島、北豐島、南足立、南葛飾

諸島(伊豆七島、小笠原島)

京都府

一市京都(山城)(上京區、下京區)

山城ノ愛宕葛野宇治紀伊乙訓久世綴喜相樂、丹波ノ南桑田北桑田船井何鹿天田、丹後ノ加佐與謝中竹野熊野

二市

大坂(攝津)(東區西區南區北區) 堺(和泉)

大坂府

廿七郡

攝津ノ東成、西成、住吉、島下、島上、豐島、能勢、和泉ノ大島、泉、南、日根、河内ノ茨田、交野、讚良、河内、若江、澁川、大縣、高安、丹北、志紀、丹南、八上、安宿、古市、石川、錦織

神奈川縣

一市 横濱(武藏)

武藏ノ久良岐、橘樹、都筑、西多摩、南多摩

十五郡

相模ノ三浦、鎌倉、高坐、大住、陶綾、足柄上、足柄下、愛甲、津久井







北海道廳

後志ノ久遠	歌棄	忍路	石狩ノ札幌	天鹽ノ増毛	北見ノ宗谷	八十八郡 膽振ノ山越	日高ノ浦河
奥尻	磯谷	餘市	石狩	留萌	常呂	白老	幌泉
太樺	岩内	古平	厚田	苫前	紋別	千歳	沙流
瀬棚	古宇	美園	上川	利尻	有珠	新冠	新冠
壽都	小樽	積丹	濱益	禮文	虻田	静内	静内
島牧	高島	夕張	空知	網走	幌別	三石	三石
				斜里	勇拂	様似	様似

埼玉縣—十八郡

十勝ノ廣尾	釧路ノ釧路	根室ノ根室	千島ノ國後	武藏ノ新座	大里	加美	北足立	下總ノ中葛飾	上野ノ東群馬
當縁	白糠	花咲	得撫	入間	幡羅	那加	北葛飾		南勢多
十勝	阿寒	野付	新知	高麗	榛澤	秩父			西群馬
中川	足寄	標津	占守	比企	男衾	南埼玉			片岡
河西	川上	目梨	葉取	横見	兒玉	北埼玉			緑
	厚岸								



群馬縣一十七郡

野多湖 南甘樂 北甘樂 碓氷  
吾妻 利根 北勢多 佐位 那波  
山田 新田 邑樂

上總ノ市原 長柄 上埴生 山邊 武射

望陀 周准 天羽 夷隅

千葉縣一廿一郡

下總ノ千葉 東葛飾 印幡 下埴生 南相馬

馬 香取 海上 匝瑳

安房ノ平 朝夷 長狹 安房

茨城縣

一市 水戸(常陸)

常陸ノ東茨城 西茨城 那珂 久慈 多賀

眞壁 鹿島 行方 新治 筑波

十八郡

信太 河内

下總ノ猿島 西葛飾 結城 岡田 豊田

北相馬

栃木縣一九郡

下野ノ足利 梁田 安蘇 上都賀 下都賀  
河内 芳賀 那須 塩谷

三重縣

一市 津(伊勢)

伊勢ノ桑名 員辨 三重 朝別 鈴鹿

奄藝 河曲 安濃 多氣 一志

廿一郡

飯高 飯野 度會 伊賀

伊賀ノ阿拜 山田 名張

志磨ノ答志 英虞

本邦地誌



愛知縣

一市 名古屋(尾張)

尾張ノ愛知

西春井

東春井

丹羽

葉栗

十九郡

三河ノ

海東

海西

知多

東加茂

北設樂

南設樂

寶飯

渥美

八名

静岡縣

一市 静岡(駿河)

駿河ノ駿東

富士

庵原

有渡

安部

廿三郡

伊豆ノ加茂

那賀

君澤

田方

山名

遠江ノ

佐野

城東

豊田

山名

磐田

周知

敷知

長上

濱名

引佐

龜玉

山梨縣

一市 甲府(甲斐)

甲斐ノ東山梨

西山梨

東八代

西八代

九郡

南巨摩

中巨摩

北巨摩

南都留

北都留

滋賀縣十三郡

近江ノ滋賀

栗本

野洲

甲賀

蒲生

神崎

愛知

犬上

坂田

東淺井

西淺井

伊香

高島

岐阜縣

一市 岐阜(美濃)

美濃ノ厚見

各務

方縣

羽栗

中島

海西

下石津

多藝

上石津

不破

廿五郡

安八

大野

池田

本巢

席田



長野縣十六郡

山縣 武儀 郡上 加茂 可兒  
 飛驒 土岐 惠那 郡上 加茂 可兒  
 飛驒 大野 益田 吉城  
 信濃 南佐久 北佐久 小縣 更科 埴科  
 上高井 下高井 上水内 下水内  
 諏訪 上伊那 下伊那 西筑摩  
 東筑摩 南安曇 北安曇

宮城縣

一市 仙臺(陸前)  
 十六郡

陸前 柴田 名取 宮城 黒川 加美  
 志田 遠田 桃生 牡鹿 玉造  
 栗原 登米 本吉  
 磐城 刈田 伊具 亘理

福島縣廿一郡

岩代 北會津 南會津 河沼 耶麻 大沼  
 信夫 伊達 安達 安積 岩瀬  
 磐城 西白川 東白川 菊田 磐前 磐城  
 石川 田村 楢葉 標葉 行方 宇多

岩手縣

一市 盛岡(陸中)  
 十九郡

陸中 南岩手 北岩手 紫波 稗貫 東和  
 賀 西和賀 西閉伊 南閉伊 東閉  
 伊 中閉伊 北閉伊 南九戸 北九  
 戸 江刺 膽澤 西磐井 東磐井  
 陸奥 二戸  
 陸前 氣仙



青森縣		山形縣		秋田縣	
一市	八郡	二市	十一郡	一市	九郡
弘前 <small>ヒロノヘ</small> 陸奥	陸奥ノ東津輕	山形 <small>ヤマノ</small> 羽前	羽前ノ南村山	秋田 <small>アキタ</small> 羽後	羽後ノ南秋田
北津輕	西津輕	米澤 <small>メザ</small> 羽前	最上 <small>モウジ</small> 西置賜	陸中ノ鹿角	仙北 <small>センペク</small> 平鹿
上北	中津輕	羽前ノ東村山	東田川 <small>ヒタカ</small> 西田川	雄勝	山本
下北	南津輕	北村山	南置賜	河邊	由利
三戸		西村山	東置賜		

福井縣		石川縣		富山縣		鳥取縣	
一市	十一郡	一市	八郡	二市	五郡	一市	
福井 <small>フクイ</small> 越前	越前ノ丹生	金澤 <small>カナザ</small> 加賀	加賀ノ河北	富山 <small>トヨカミ</small> 越中	越中ノ射水	鳥取 <small>トリ</small> 因幡	因幡ノ氣多
足羽	今立	石川	能登ノ羽咋	高岡 <small>タカオカ</small> 越中	礪波	高草	八上
吉田	敦賀	能美	鹿島	婦負	上新川	知頭	八東
大野	遠敷	江沼	鳳至	上新川	下新川		
坂井	三方	珠洲					
南條							







十二郡

見島  
周防ノ大島  
玖珂  
熊毛  
都濃  
佐波  
吉敷

和歌山縣

一市

和歌山(紀伊)

八郡

紀伊ノ名草  
日高  
西牟婁  
東牟婁  
海部  
那賀  
伊都  
有田

德島縣

一市

德島(阿波)

十郡

阿波ノ名東  
板野  
勝浦  
海部  
那賀  
美馬  
名西  
三好

香川縣

一市

高松(讃岐)

十二郡

讃岐ノ大内  
阿野  
寒川  
三木  
山田  
小豆  
香川  
阿野  
鞆足  
那珂  
多度  
三野  
豊田

愛媛縣

一市

松山(伊豫)

十八郡

伊豫ノ宇摩  
野間  
伊豫  
東宇和  
北宇和  
南宇和  
新居  
周布  
桑村  
越智  
風早  
和氣  
温泉  
上浮穴  
久米  
下浮穴  
喜多  
西宇和

高知縣

一市

高知(土佐)

七郡

土佐ノ土佐  
幡田  
高岡  
吾川  
長岡  
香美  
安藝

福岡縣

二市

福岡(筑前)

久留米(筑後)

筑前ノ糟屋

穂波

上座

下座

夜須

御笠

宗像

遠賀

鞍手

嘉麻

水邦地誌

三四一



卅一郡

那珂 御井 三池 上妻 下妻 生葉 竹野 築城 上毛  
 那珂 御原 山本 三瀨 山門  
 筑後ノ御井 三池 上妻 下妻 生葉 竹野 築城 上毛

大分縣一十二郡

豊前ノ企救 田川 京都 仲津 築城 上毛  
 豊前ノ下毛 宇佐  
 西國東 東國東 速見 大分 大野  
 南海部 北海部 直入 玖珠 日田

佐賀縣

一市 佐賀肥前  
 十郡 肥前ノ藤津 杵島 小城 佐賀 神崎  
 三根 養父 基肆 東松浦 西松浦

熊本縣

一市 熊本(肥後)  
 肥後ノ飽田 託摩 菊池 合志 山鹿

十五郡

山本 玉名 阿蘇 上益城 下益城  
 宇土 八代 蘆北 球摩 天草

宮崎縣一九郡

日向ノ北那珂 南那珂 北諸縣 西諸縣  
 東諸縣 東臼杵 西臼杵 兒湯 宮崎

鹿島縣

一市 鹿兒島(薩摩)  
 薩摩ノ鹿兒島 谷山 給黎 楫宿 阿多  
 日置 穎娃 川邊 甌島 高城 出水  
 北伊佐 薩摩 南伊佐

廿六郡

大隅ノ熊毛 取謨 大嶋 菱刈 始良  
 桑原 東贈啖 西贈啖 西大隅  
 北大隅 肝屬  
 日向ノ南諸縣



沖繩縣—琉球諸島(五十五島)

(區劃ノ沿革) 既ニ記述セル大八洲及ヒ六島ハ神代ヨリ既ニ我版圖ニ歸シ就中伊豫ノ二名之島即チ今ノ四國ハ伊豫讚岐粟土佐ノ四國ニ分レ筑紫島即チ今ノ九州ハ筑紫豊火及熊曾ノ四ヶ國ニ分レテ尤早ク國土ヲ成セリ然ルニ大倭豊秋津島即チ今ノ本州ハ經營未タ全カラズ從ツテ區分モ成立スルニ至ラスシテ唯其西部今ノ山陰山陽兩道地方ノミ稍々定マリタルモノ、如カリキ

神武天皇中洲ヲ平定シテ都ヲ大和ノ橿原ニ定メ玉ヒ各地ニ國造ヲトシ置カレシカ未タ確タル國境トテハナカリキ第十代崇神天皇十年將軍ヲ北陸東海西海及丹波ノ四道ニ派遣ズト云フコトアリ四道ノ名始メテ國史ニ見ユ第十三代成務天皇五年國郡立造長縣邑置稻置則隔山河而分國縣隨阡陌以定邑里トアリ是レ本邦自然ノ地勢ニ因リテ國縣邑

里ノ境ヲ定メラレタル濫觴ナリ其後漸次之ヲ修定シ第十九代允恭天皇ノ時國境ノ標ヲ立テ第三十二代崇峻天皇ノ世諸臣ヲ東海北陸東山諸道ニ遣シ蝦夷國境東方濱海諸國境及ヒ越等ノ諸國境ヲ閱セシメラレタリトテ東山道ノ名始メテ史上ニ見ユヘリ  
第三十六代孝德天皇大化二年始メテ畿内ヲ置キ又大ニ國郡ノ制ヲ修定セリ當時ノ畿内ハ今ノ畿内ヨリモ頗ル廣クシテ東ハ今ノ伊賀尾張ヨリ西ハ播磨ノ明石ニ至リ南ハ紀伊ノ兄山ヨリ北ハ近江ノ逢坂山ニ至ル地方ヲ指セリ第四十二代天武天皇ノ世伊勢國ヲ割キテ伊賀國ヲ置キ駿河國ヲ割キテ伊豆國ヲ置キ第四十三代文武天皇新令ヲ天下ニ頒チ國ヲ大上中下ノ四等ニ分ツ此時薩摩國及多祿ヲ特立セシメ西海道ヲ八國三島トシ全國合シテ五十三國三島アリ  
第四十三代元明天皇ノ世越後陸奥兩國ヲ割キテ出羽國ヲ置キ丹波ヲ



割キテ丹後國ヲ置キ備前國ヲ割キテ美作國ヲ置キ日向國ヲ割キテ大隅國ヲ置ク是ニ於テ畿内七道六十二國三島トナル第四十四代元正天皇ノ世内國ヲ割キテ和泉監ヲ置キ越前國ヲ割キテ能登國ヲ置キ上總國ヲ割キテ安房國ヲ置キ信濃國ヲ割キテ諏訪國ヲ置キタリ

第四十五代聖武天皇ノ世ニ至リ諏訪國ヲ廢シ和泉監ヲ河内ニ併セ安房ヲ上總ニ能登ヲ越中ニ佐渡ヲ越後ニ併セテ大ニ其國數ヲ減シタリ

第四十六代孝謙天皇ノ代亦佐渡能登安房和泉諸國ヲ復置セリ第五十二代嵯峨天皇ノ世越前國ヲ割キテ加賀國ヲ置キ次ノ淳和天皇多祿島ヲ廢シテ大隅ニ隸セシメタリ是ニ至リテ本邦分道國ノ制固ク備ハリ全國ヲ通シテ一畿(五國)七道(東海道十五國 東山道八國 北陸道七國 山陰道各八國 南海道六國 西海道九國)六十六國二島(對馬 壹岐)トナル爾來久シク此制ヲ永續シテ明治維新ノ時ニ至レリ

明治元年陸奥ヲ分テ磐城岩代陸前陸中陸奥ノ五國トシ出羽ヲ分テテ羽前羽後ノ二國トセシカハ東山道ハ十三國トナリ尋テ蝦夷國ヲ北海道トシ之ヲ十一國ニ分テ又琉球ヲ併セテ終ニ一畿八道八十五國トナレリ

分離ノ事ハ大化二年孝德天皇ノ世ニ初マリ其分合廢置極メテ繁雜ニシテ一々枚擧スル能ハス且其必要ヲ見サレハ之ヲ畧ス

(外交) 條約ヲ締結セル諸國ハ朝鮮清暹羅魯西亞瑞典那威英吉利丁抹和蘭白耳義獨乙佛蘭西西班牙葡萄牙伊太利瑞西澳太利北米合衆國墨西哥布哇ハ二十ヶ國ニシテ之ニ公使ヲ駐在セシメ領事ヲ派遣シ置ク(地方ノ行政) ハ一廳三府四十三縣ニ分テ廳ニ長官アリ府縣ニ知事アリ市郡村町ニ各長アリ皆議會ヲ有ス而シテ市町村ハ大概自治制ヲ布ケリ



(軍制) ハ陸海軍ニ分レ其行政事務ハ陸海軍大臣之ヲ行フ陸軍ハ國民ノ男子十七才ヨリ四十才ニ至ル之ニ服役ス分テ常備兵後備兵國民兵ノ三トシ常備兵ヲ小別シテ現役及ビ豫備役トシ現役ハ陸軍ハ三ヶ年海軍ハ四ヶ年ニシテ二十才ニ達シタル男子之ニ服シ豫備役ハ陸軍四ヶ年海軍三ヶ年ニシテ現役ヲ終リタルモノ之ニ服ス後備兵常備兵役ヲ終リタルモノ之ニ服シ其年限ヲ五ヶ年トス國民兵ハ十七才以上四十才迄ノ前二役ニアラサルモノ悉ク之ニ服ス

陸軍ニハ步兵騎兵砲兵工兵輜重兵屯田兵憲兵軍樂隊等ノ諸種アリ之ヲ編制シテ近衛六師團トシ全國六師管區ニ分テ各師管區ニ一師團ヲ置キ各師管區ヲ二旅管區ニ分ツ左ノ如シ

(近衛ハ一師團ニシテ又二旅團ニ分ツ)

師管	旅	管	地	方
----	---	---	---	---

第	一	第一 (東京)	東京ノ内十區三郡及伊豆七島小笠原島神奈川埼玉ノ内十二郡山梨群馬長野
		第二 (佐倉)	千葉茨城東京ノ内五區三郡埼玉ノ内六郡栃木
第	二	第三 (仙臺)	宮城ノ内一市十三郡福島新潟
		第四 (青森)	青森岩手宮城ノ中三郡秋田山形北海道
第	三	第五 (名古屋)	愛知ノ内一市十四郡三重ノ内一市十七郡静岡
		第六 (金澤)	石川富山岐阜愛知ノ内五郡福井ノ内一市八郡
第	四	第七 (大坂)	大坂ノ内二市二十二郡和歌山奈良滋賀三重ノ内四郡京都ノ内一市八郡
		第八 (姫路)	兵庫鳥取岡山ノ内一市廿郡大坂ノ内五郡京都ノ内十郡福山ノ内三郡
第	九	第九 (廣島)	廣島岡山ノ内十一郡山口ノ内十一郡島根



五	第十(松山)	愛媛、香川、徳島、高知
第	第十一(熊本)	熊本、宮崎、大分、内八郡、鹿兒島、沖繩
六	第十二(小倉)	山口、内一市一郡、福岡、佐賀、大分、内四郡、長崎

陸軍人員ハ將校ヨリ士卒官吏生徒等ニ至ルマデ二十五年ノ統計ニヨ  
 ルニ二十六万九千七百四十八人アリ豫備兵ハ士卒ノミニテ八万九千  
 九十七人後備兵ハ十九万三千五百七十七人アリ  
 砲臺ハ東京灣ニ六ヶ所アリ内三ヶ所ハ相摸ニ屬シ他ハ下總ニ屬ス横  
 須賀軍港防禦ノ爲メ亦五ヶ所ノ砲臺アリ紀伊淡路ノ海峡ニ五ヶ所内  
 三ヶ所ハ紀伊ニヶ所ハ淡路ニ屬ス下ノ關海峡ニモ長門ニ六ヶ所豊前  
 ニ三ヶ所アリ對馬ニモ四ヶ所ノ砲臺アリ  
 海軍區ハ之ヲ分チテ五トシ各海岸ヲ分担シテ防禦ス

第一	第二	第三	第四
横須賀鎮守府	吳鎮守府	佐世保鎮守府	舞鶴鎮守府
相摸國三浦郡 横須賀港	安藝國安藝郡 吳港	肥前國東彼杵郡 佐世保港	丹後國加佐郡 舞鶴港
陸中國南九戸北閉伊郡境ヨ リ紀伊國南牟婁東牟婁郡界 ニ至ルノ海岸海面及ヒ小笠 原島ノ海岸海面	紀伊國南北牟婁郡界ヨリ石 見長門國境ニ至リ又筑前豊 前國界ヨリ九州東海岸ニ沿 ヒ日向國南那珂南諸郡境 ニ至リ海岸海面及四國ノ海 岸海面并ニ内海	筑前豊前國界ヨリ九州西海 岸ニ沿ヒ日向國南那珂南諸 縣郡境ニ至ルノ海岸海面及 豊前對馬沖繩諸島ノ海岸海 面	石見長門國界ヨリ羽後陸奥 國界ニ至ルノ海岸海面及隱 岐佐渡ノ海岸海面
一〇五七	二〇六七	一四九七	一〇五五
管	管	管	管
所	所	所	所
港	港	港	港
軍	軍	軍	軍
長海	長海	長海	長海
里岸	里岸	里岸	里岸
程延	程延	程延	程延



第五、室蘭鎮守府  
未開廳

膽振國室蘭郡  
室蘭港

北海道陸奥及陸中國北九戸  
南九戸兩郡ノ海岸海面

二二七六

但シ舞鶴及ヒ室蘭鎮守府ヲ設置スル迄ハ第四海軍區中越後以東及ヒ第五海軍區ヲ橫須賀鎮守府ニ管セシメ第四軍區中越中以西ヲ吳鎮守府ニ管セシム  
軍艦ノ數ハ總計三十五艘ニシテ内鉄製銅製鉄骨木皮木製鋼骨鉄皮等ノ諸種アリ

海軍々人總計一万三千九百八十七人ニシテ豫備一万二千六百六十二人ニシテ後備ハ二百三十人ナリ

(司法ノ區分) ハ上ニ一個ノ大審院アリ帝國最高ノ裁判所ナリ下ニ七個ノ控訴院アリ各控訴院ノ下ニ四十八個ノ地方裁判所ト二百九十九個ノ區裁判アリ管轄區ノ大畧ヲ示セバ左ノ如シ

大審院(一)

控訴院(七)

控訴院	地裁所方	區裁判所數	全上	全上	全上	全上	全上
東京	東京 宇都宮 甲府	六 五 三	橫濱 浦和 長野	四 五 一〇	千葉 前橋 新潟	一七 一六 一〇	水戸 静岡 岡
大坂	京都 岡山 富山 松山	七 七 四 四	大坂 大津 和歌山 高松	六 六 二 二	奈良 福井 德島	四 六 四	神戶 金澤 高知
名古屋	名古屋	六	安濃津	七	岐阜	五	
廣島	廣島	六	山口	七	松江	六	鳥取
							三



函館	宮城	長崎	長崎
根室	盛岡	沖繩	熊本
二	七	一	八
六	六	八	七
函館	秋田	鹿兒島	佐賀
四	七	五	四
札幌	山形	宮崎	福岡
五	五	五	八
			大分
			八

第四章 處誌

(畿内)ノ置治都市ハ京都大坂神戸奈良ニシテ京都ハ山城ノ中央ニアリ桓武天皇ヨリ明治ノ初年ニ至ルマデ千七十六年間ノ帝都タリ市街端正清潔ニシテ市チ南北兩京ニ分ツ近傍寺社名勝古跡等多ク淀川ア

ツテ水運チ便ニシテ汽車アツテ東京大坂ニ通スベク織物陶器ニ名高ク我邦三府ノ一ナリ

大坂ハ安治川口ニアリ本邦商業ノ中心ニシテ市街般賑百貨輻湊ス鉄道舟楫ノ利實ニ本邦ニ冠タリ大坂城ハ天正年間豊臣大閤ノ築キシ處ニシテ今茲ニ大坂鎮臺チ置ク是亦三府ノ一タリ神戸ハ大坂灣ニ枕ミ和田岬其西チ擁シ港内水深クシテ碇舶ニ便ナリ氣候亦宜シキチ以テ肺病患者ノ如キハ多ク此地ニ移住ス港川社ハ此地ノ名勝タリ奈良ハ元明天皇以降七世八十四年間ノ帝都タリシ處ニシテ名勝古跡多ク日本美ノ淵藪ト稱セラル奈良晒ハ此地ノ名産タリ

(東海道)ノ置治都市ニハ津名古屋静岡甲府東京浦和横濱千葉水戸アリ津ハ伊勢ニアリ三重縣應チ置カル海濱ニアリ舟運ノ利アリ名古屋ハ尾張平野ノ南方ニアリ三府ニツク大都會ニシテ汽車ノ利アリ商業



盛ノニ且近村ヨリ陶器ヲ出スヲ多シ殊ニ著名ナルハ慶長十五年徳川  
 義直ガ築造セシ城閣ニシテ天主閣上ノ金鯨燦爛人目ヲ眩ス愛知縣應  
 茲ニ在リ静岡ハ駿河安倍川ノ東岸ニアリテ東海道鉄道ニ當リ清水港  
 ナ去ルヲ遠カラズ水陸運輸ノ便アリ漆器竹器ヲ以テ名高シ甲府ハ山  
 梨縣應ノアル處ニシテ葡萄酒生絲ノ製造ヲ以テ名アリ東京ハ北緯三  
 十五度四十一分ニ位シ東京灣ニ枕ム本邦ノ首府ニシテ亦實ニ世界大  
 都ノ一ナリ倫敦巴理伯林北京ニ讓ルノミ政治文學交通其ノ他百般ノ  
 中心一トシテ茲ニ集マラザルモノナク市街ノ殷賑家屋ノ宏壯等一々  
 枚擧スベカラズ横濱ハ五港ノ一ニシテ東京灣ニ枕ミ東京ト相去ル八  
 里安政六年ノ開港場ナリ浦和ニ埼玉縣應アリ千葉ニ千葉縣應アリ水  
 戸ニ茨城縣應アリ水戸ハ那珂川ノ沿岸ニアリ烟草ノ製造ニ名高シ  
 其他伊勢ノ山田ハ外宮ヲ以テ名アリ尾張ノ熱田ハ熱田神社ニ名高シ

三河ノ岡崎ハ徳川氏基業ノ地タルヲ以テ關ニ相摸ノ小田原ハ北條氏  
 ノ居城ナリシヲ以テ鳴ル

(東山道) ノ置治都市ハ大津岐阜長野前橋宇都宮福島仙臺盛岡青森山  
 形秋田ニシテ大津ハ琵琶湖ニ濱シ滋賀縣應ノアル處ナリ東海道鐵道  
 此所ヲ通シ湖上ノ汽船長濱米原ニ達スベシ岐阜美濃ハ長良川ニ濱シ  
 鴨飼ヲ以テ名アリ長野ハ信濃ノ北部ニアリ北國鐵道茲ヲ通ズ善光寺  
 ナ以テ著名ナリ前橋ハ群馬縣應ノアル所ニシテ西高崎東桐生足利ニ  
 通スル鐵道アリ生絲ヲ以テ著名ナリ宇都宮ハ東北鐵道ノ衝ニ當リ日  
 光ニ通ズル鐵道アリ交通極メテ便ニシテ朽木縣應アリ福島ハ岩代阿  
 武隈川ニ濱シ福島縣應茲ニ在リ東北養蠶地ノ中心ナリ仙臺ハ東北ノ  
 大都會ニメ宮城縣應ノアル所ナリ此地仙臺平ヲ以テ世ニ名高シ盛岡  
 ハ陸中北上川ニ濱シ岩手縣應ノ所在地ナリ青森ハ本州北端ノ都會ニ



メテ青森灣ニ枕ミ函館トノ舟船常ニ往來ス山形ハ奥羽中商業ノ盛ニ  
 シテ紅花ヲ以テ名アリ秋田ハ秋田畝織ノ產地ナリ  
 其他美濃ノ大垣信濃ノ松本上野ノ高崎岩代ノ若松陸奥ノ弘前羽前ノ  
 米澤等ハ何レモ繁華ノ都會タリ

〔北陸道〕ノ置治都市ニハ福井金澤富山新潟アリ福井ハ越前足羽川ニ  
 濱シ水路坂井港ニ至ルベシ此地奉書細羽二重ヲ以テ著名ナリ金澤ハ  
 北國第一ノ大會ニシテ商業ノ繁盛ナルコト名古屋ニ次ギ石川縣廳  
 玆ニアリ新潟ハ五港ノ一ニシテ信濃川ノ河口ニ枕ム港内水深カラズ  
 且冬季風波ノ烈シキガ爲メ舟船ノ安穩ハ却ツテ越前敦賀港ニ及バズ  
 ト云フ

〔山陰道〕ノ置治都市ハ鳥取松江ノ二ニシテ鳥取ハ因幡ノ千代川ニ濱  
 シ松江ハ宍道湖ニ臨ミ島根縣廳ノアル處ニシテ風景絶佳ナリ

〔山陽道〕ノ置治都市ハ岡山廣島山口ノ三ナリ岡山ハ廣島ニ次グ大都  
 ニシテ運輸ノ便アリ廣島ハ山陽第一ノ大都ニシテ廣島灣ニ枕ム山口  
 ハ山間ノ小都會ナレドモ置縣ノ地タルヲ以テ名アリ  
 姫路ト赤間關トハ治縣ノ地ナラズト雖モ甲ハ山陽道ノ要路ニ方リ乙  
 ハ九州ニ渡ル要津ナルヲ以テ甚著名ナリ尙ホ播磨ノ明石美作ノ津山  
 長門ノ萩等共ニ著名ナル都邑タリ

〔南海道〕ノ置治都市ハ和歌山徳島高松松山高知ニシテ和歌山ハ紀ノ  
 川ノ下流ニ臨ミ和歌浦ニ向テ徳島ハ四國第一ノ大都ナリ吉野川ノ河  
 口ニアリテ運輸ノ便アリ高松ハ愛媛縣廳ノ所在地松山ハ愛媛縣廳ノ  
 所在地ニシテ共ニ繁盛ナリ高知ハ土佐灣頭ニアリ此地ト大坂ノ間ニ  
 汽船常ニ往來ス

〔西海道〕ノ置治都市ニハ福岡大分佐賀長崎熊本宮崎鹿兒島那覇アリ



福岡ハ那珂川ノ河口ニアリ九州第二ノ大都會ニシテ今博多ヲ合シテ福岡市ト云フ博多港内水深クシテ碇泊ニ便ナリ此地博多織ノ名地トシテ世ニ名高シ

長崎ハ五港ノ一ニシテ本邦ノ西洋諸國ト交通ヲ始メシハ實ニ此港ニ在リ港内水深ク市街繁盛東洋屈指ノ良港ニシテ數州諸國ニ至ル船ハ必ズ茲ニ寄港ス熊本ハ九州第一ノ大都會ニシテ白川ニ臨ミ古來加藤清正ノ築キシ堅城アルヲ以テ著名ナリ鹿兒島ハ同名ノ灣ニ臨ミ琉球神戸間ノ船來往シテ商業本邦南部ノ大都アリ

此外筑後ノ久留米豊前ノ小倉等有名ナル都邑アリ

(北海道)ニハ道廳ヲ札幌ニ置シ札幌ハ石狩川ノ川口ニ在リ鉄道ノ便アリ交通宜シク商業繁盛ナリ函館ハ五港ノ一ニシテ渡島灣ニ臨ミ港内水深クシテ船舶輻湊ス根室ハ右二都ニ次キテ繁盛ナル都市アリ

今左ニ全國ニ於ケル一万五千以上ノ人口ヲ有スル都邑ノ名稱ヲ列舉ス

武藏東京市	一、二六一、八〇〇	渡島函館區	五七、九四三
攝津大坂市	四八三、六〇九	肥後熊本市	五六、六一八
山城京都市	二九七、五二七	筑前福岡市	五四、八五五
尾張名古屋市	一七九、一七四	越後新潟市	四七、二〇一
攝津神戸市	一四二、九六五	備前岡山市	四七、〇〇二
武藏横濱市	一三二、六二七	和泉堺市	四四、九九〇
加賀金澤市	九三、五三一	琉球那覇	四二、九七三
安藝廣島市	九、一五四	越前福井市	四一、五九七
陸前仙臺市	六四、四七六	駿河静岡市	三八、三三一
肥前長崎市	六〇、五八一	出雲松江市	三五、四五九



阿波德島市	五九、九六九	讚岐高松市	三四、六二五
越中富山市	五九、〇九〇	伊豫松山市	三四、五七三
薩摩鹿兒島市	五六、一五七	長門赤間關	三三、一一三
紀伊和歌山市	五五、六六八	甲斐甲府市	三三、〇五五
土佐高知市	三三、〇三九	美濃大垣町	一九、八七五
上野前橋町	三二、五三一	羽前鶴岡町	一九、八四〇
陸中盛岡市	三一、八八六	武藏川越町	一九、七四〇
近江大海町	三一、八五二	薩摩東南戸村	一九、四八五
下野宇都宮町	三一、二六八	長門萩町	一九、四一〇
美濃岐阜市	三〇、九九四	信濃上田町	一九、一三一
陸奥弘前市	三〇、五〇〇	伊勢四日市	一八、八六〇
越中高岡市	二九、六八四	尾張熱田町	一八、六三九

羽前米澤市	二九、五二八	相摸横須賀町	一八、三七一
因幡鳥取市	二九、〇一九	阿波撫養町	一八、二八〇
薩摩穎姪村	二〇、〇九六	岩代福島町	一八、一〇六
讚岐丸龜町	一九、八八九	備後尾道町	一八、〇四七
上野桐生町	一七、九二七	上野高崎町	二六、九一三
下野栃木町	一七、九一七	播磨姫路市	二六、九〇三
武藏品川町	一七、五三四	信濃松本町	二六、六五七
山城伏見町	一七、四七六	攝津難波村	二六、六一九
越中新港町	一七、三七六	後志小樽町	二六、五九七
羽後秋田市	二八、九七七	筑後久留米市	二五、七一九
羽前山形市	二八、九五七	琉球首里	二五、六八一
肥前佐賀市	二八、四四九	石狩札幌區	二五、六三四



伊勢宇治山田町	二八、三五六	大和奈良町	二五、〇五〇
伊勢津市	二七、八三七	岩代若松町	二四、六〇〇
信濃長野町	二七、三七六	薩摩谷山村	二四、四四六
常陸水戸市	二七、〇九〇	下總千葉町	二四、三六八
武藏八王子町	二二、六一〇	下總本銚子町	一五、二六一
陸奥青森町	二二、一四二	越前敦賀町	一五、一一〇
羽後酒田町	二二、二〇七	薩摩阿久根村	一五、〇六四
播磨明石町	二〇、四〇三	下野足利町	一五、〇〇五
越後高田町	二〇、三一一	薩摩知覺村	一四、九八五
陸前石巻町	一七、二四四	周防山口町	一四、九七七
三河岡崎町	一六、五七三	武藏千住町	一四、八四二
豊前小倉町	一六、四三六	薩摩指宿村	一四、八三一

武藏神奈川町	一六、二六八	薩摩伊作村	一四、七一一
攝津天王寺村	一五、九〇三	渡島江差町	一四、六八〇
飛騨高山町	一五、五六五	薩摩伊敷村	一四、五一六
備後福山町	一五、五〇七	三河豊橋町	一四、五〇九
越前武生町	一四、四六一	大隅垂水村	一三、四五二
相摸小田原町	一四、三二六	伊賀上野町	一三、四二〇
遠江濱松町	一四、三一九	越中魚津町	一三、三九三
筑後一牟田町	一四、二三一	安藝廣島村	一三、二九九
安藝仁保島村	一四、二一九	伊勢松坂町	一三、一四五
薩摩川邊村	一三、九八五	越後新發田町	一三、一四一
佐渡相川町	一三、八五三	加賀小松町	一三、〇九七
薩摩加世田村	一三、七六四	肥後水俣村	一三、〇八五



伊豫今治町	一三、七五七	豐前中津町	一三、〇四一
薩摩西加世田村	一三、七三〇	信濃飯田町	一三、〇三三
攝津尼ヶ崎町	一三、六九六	安藝倉橋島村	一三、九七六
伯耆米子町	一三、四五八	相摸浦賀町	一三、八六一
大和郡山町	一二、七五〇	駿河沼津町	一〇、九二二
讚岐觀音寺町	一二、七三五	常陸石岡町	一〇、八八二
阿波小松島村	一二、七二五	紀伊新宮町	一〇、八六七
渡島福山町	一一、三三三	大隅末吉村	一〇、七九七
肥後佐世保村	一一、三三三	下野田沼町	一〇、七五八
羽前横手町	一一、二五六	讚岐坂出町	一〇、七二五
下總佐原町	一一、二五四	能登七尾町	一〇、七二一
大隅北種子村	一一、二二八	薩摩西南方村	一〇、六二〇

羽前新庄町	一一、二〇一	常陸土浦町	一〇、六〇九
日向小林村	一一、一六六	周防家室西方村	一〇、六〇二
豊後大分町	一一、二二八	肥前西有家村	一〇、五七六
陸奥八戸町	一一、〇三三	周防三田尻村	一〇、五六〇
安藝瀬戸村	一〇、五一八	常陸港町	一一、七五三
美作津山町	一一、六七六	越中氷見町	一一、七五一
伊豫宇和島町	一一、五一七	根室根室	一一、七〇七
攝津曾根崎村	一一、四七八	尾張一宮町	一一、六八〇
日向都城町	一一、二〇八	羽後能代港町	一一、六六七
周防徳山村	一一、二二五	下野足尾町	一一、六六二
下總船橋町	一一、一〇八	磐城白河町	一一、六一九
攝津西宮町	一一、〇五七	薩摩東加世田村	一一、五八八



羽後土崎港町	一一、九三四	薩摩東市來村	一一、六〇九
尾張津島町	二、八三二	安藝江田島町	一一、五八四
武藏戸太村	二、七八一	大隅加治木村	一一、四一五
攝津東平野町	一一、七五五	武藏熊谷村	一一、三七九
駿河長田町	一〇、四四八	能登輪島町	一〇、一三九
薩摩吉野村	一〇、四三四	豊後白杵町	一〇、〇三二
大和十津川村	一〇、三七六	常陸磯濱町	一〇、〇二〇
越前三國町	一〇、三四九	武藏南千住町	一〇、〇一〇
常陸結城町	一〇、三二〇		
越中滑川町	一〇、二八五		
下總古河町	一〇、二八五		
筑後大河町	一〇、二八四		

甲斐増穂村	一〇、二五〇
武藏大森村	一〇、一〇〇
紀伊湯淺村	一〇、〇九二
越後直江津町	一〇、一〇〇

### 第五章 生 業

本邦ハ地狹ク山岳重疊シテ無限ノ曠野ナシト雖モ亦川流蛛手ノ如ク  
 縦横ニ貫流シ山谿河岸稍平坦ナル地アリ且四面皆海ニ濱シ氣候温和  
 地味亦肥沃ナルヲ以テ諸般ノ生業一トシテ具備セザルモノナシ今左  
 ニ其一斑ヲ示サントス

#### (一) 山 林



各地ノ山陵岳大率森林ヲ以テ蔽ハレ材木薪炭ヲ出スヲ多シ殊ニ東山道ハ他ノ諸道ニ勝リテ森林多シ良材ヲ出スヲ夥シ其中最モ著名ナルハ飛驒信濃兩毛陸中陸奥羽後ノ諸山林ニシテ木曾ノ山林ヲ以テ第一トス其反別凡ソ十五万余町檜ヲ以テ主ナルモノトシ樺松杉等之ニ次ク其數凡ソ千二百万本伐採シタル材木ハ木曾川ヲ下シテ諸方ニ回送スト云フ

木曾山林ニ續キテ飛驒美濃ノ山林アリ亦檜松杉等ヲ最多トス其數凡ソ二百七十万本上野ノ山林ハ利根吾妻勢多諸郡ニアリ反別凡ソ六万八千町檜黒檜唐檜梅松樺椴栗檜山毛榉等ヲ著名ナルモノトス其數凡ソ千二百万本下野ノ山林ハ盪谷都賀等諸郡ニ誇リ廣サ合シテ十六万町余日光ノ杉檜最モ著名ナリ立木ノ總數凡ソ四千五百万陸奥ノ津輕郡ニハ檜杉松多シ羽後ノ山林ニ松檜椴栗多シ前者ハ廣サ凡二十九万

町立木凡四千二百万本後者ハ凡ソ二百五万町立木凡ソ二千二百万本陸中ノ山林ニハ良材乏シ

東山道ニツギテ山林多キハ東海道トス中ニモ著名ナルハ伊勢遠江伊豆諸國ノ森林ニシテ駿河安部郡武藏秩父郡并ニ甲斐ノ山梨巨摩兩郡ノ山林亦稍著名ナリ

伊勢ノ山林ハ多氣郡ニアリ檜樺椴山毛榉等ヲ著名ナルモノトシ其數凡一千万本宮川ノ便ニヨリテ海ニ下ス遠江ノ山林ハ周智榛原二郡ニアリ樺椴柏檜榲山毛榉松類等ヲ主ナルモノトシ其數凡一千四百万本多クハ大井天龍二川ニヨリテ平地ニ出ス伊豆ノ天城山ハ最モ著名ナルモノニシテ廣サ凡一千七百余町檜杉椴等ヲ産スルヲ多ク總數凡一億余万本アリト云フ甲斐ノ山林ニハ樺檜松杉多シ

北陸道ノ山林ニ越中ノ立山黒部ノ兩山林アリ檜杉椴唐松等ヲ主ナル



モノトシ其數凡八十餘万本アリ  
 畿内ニハ大和ノ森林アリ吉野宇智宇陀三郡ニ跨ル其數凡七億余万南  
 海道ニハ紀伊ノ森林アリ南北牟婁郡ニ跨ル杉檜松等ヲ主ナルモノト  
 ス  
 西海道ニハ著名ノ森林ナク日向ノ北諸縣郡ノ霧島山及ヒ東嶽等ニ  
 亘ルニ山林アリ廣サ凡二万七千余町松樅榊樟檜等ヲ主ナルモノト  
 シ其數凡二百有余万本アリ其他豊前筑前筑後肥前肥後及ヒ屋久島ニ  
 モ小山林アリ

(二) 牧 畜

牧畜ハ古來本邦人ノ注意ヲ怠リシ所ニシテ今日トテモ未ダ十分ニ行ハ  
 レタリト云フベカラズ然ルニ各地方殊ニ北海道并ニ關東以北ノ地方  
 ニハ多クノ平原牧畜ニ適スルモノ多ク之ヲ利用シテ斯道ニ熱心セバ

豈今日ノ有様ニシテ止マシヤ

本邦家畜ノ主ナルモノハ馬牛ニシテ羊豚家畜之ニ次グ明治二十四年  
 ノ調査ニヨルニ馬牛ノ現在數合計二百六十万五千八十三頭ニシテ内  
 馬ハ一百五十四万七千六百六十一頭牛ハ一百五万七千四百二十二頭  
 ナリ

馬ヲ牧畜スルコトノ最モ多キハ西海東山ノ二道ニシテ畿内山陰最モ少  
 ナシ鹿兒島縣ハ其最多數ヲ占メ熊本縣之レニ次グ甲ハ十二万二千余  
 頭ヲ有シ乙ハ十万八千余頭ヲ有ス岩手(九万九千余頭)福島(九万余頭)秋  
 田(八万二千余頭)宮城(七万余頭)等亦之ニ次グ尙ホ五万余頭ヲ有スルモ  
 ノハ宮崎大分青森長野茨城ノ諸縣トス關東以北ノ地方ハ専ラ運搬蓄  
 殖ノ用ニ供シ山陽南海西海諸道ニアリテハ耕作ノ用ニ供スルヲ常ト  
 ス且關東以北ノ馬ハ体格壯大性質温順ナルモノ多ク西南地方ノ馬ハ



体格矮小ニシテ性質剛強ナリ  
 牛ハ中國九州ニ多クシテ畿内東海北陸諸道ニ少クシ最多キハ岡山縣  
 ニシテ八万二千余頭ナ有シ次ハ廣島縣ニシテ八万余頭ナ有ス之レニ  
 次クハ兵庫縣(七万五千余頭)鹿兒島縣(六万八千余頭)大分縣(六万七千余  
 頭)等ニシテ五万頭以上ナ有スル諸縣ハ山口島根長崎大分等トス東北  
 地方ノ牛ハ体格大ニシテ關西地方ノモノハ小ナリ但馬因幡出雲備後  
 肥後諸國ノ牛ハ其中ノ良種ト稱セラレ  
 羊ハ鹿兒島ノ諸島ナ最多トシ西南諸州ニアリ豚モ西南地方ニ多ク東  
 京近傍北海道ニモ少ナカラズ  
 家畜ハ田舎ノ戸々大率之ヲ養フト雖其數甚多カラズ上總石見及ヒ西  
 南諸州ニハ稍大ナル牧場アリ

(三) 水 産

本邦ハ海國ナルヲ以テ海産物ニ富メルヲ素ヨリナリト雖地球上我北  
 海道海岸ニ比スベキハ只那威ノ海岸及「ニユーハウンドラ」ノ海濱  
 ノミナリト云フ  
 水産物ノ主要ナルモノハ鯉ヲ第一トシ年々總額三百七八十万圓ヲ産  
 ス次ハ鮭ニシテ八十八万圓以上アリ次ハ鰹鯨ニシテ各百万圓以上ヲ  
 産ス次ハ鮪鮓昆布烏賊鰯鰒等ニシテ各四五拾万圓以上ヲ産ス鯖鱈  
 鮑等之レニ次ギ各二拾万圓以上ヲ産シ鱈鰹鯨鰯海鼠海苔等之レニ  
 次ギ各拾万圓以上ヲ産ス其他一万圓以上ノモノ鰯鱈石花菜等十數種  
 アリ  
 本邦第一ノ漁業地ハ北海道ニシテ鯉鮭昆布鯨鮓鮪鮑海參鰻虎膾豚  
 獸等多ク奥羽ニ日本海岸鮪鰯多ク太平洋海岸ニ鯉海參烏賊鰹鮪  
 鰯多ク東海道ノ沿岸ニ鰹鯨鰹鮓鮓和布石花菜蝦貝珠鮑アリ北陸山陰



両道ノ海岸ニ鯛鱈鱚鮭雲丹多ク伯耆ノ白珊瑚出雲ノ海苔松江ノ鱧  
 ハ其地ノ特産アリ南海道南岸ニハ鯨鮪海豚珊瑚真珠多ク其北岸并ニ  
 山陽道ノ海岸ニハ鱚鯛鱚等多シ西海道ノ北岸及ヒ壹岐對馬ニ鯛鱈鮭  
 鰯鮑和布石花菜雲丹アリ日向薩摩ニ鯉多ク沖繩ニ玳瑁鯨多シ内地ノ  
 河湖ニ鮎鯉鱚鱒等亦少ナカラズ  
 製鹽ハ沿海各地ニ行ハルト雖其尤モ著名ナル瀬戸内海ニ濱スル地  
 方ニアリトス此海ハ降雨少ナキ地方ナレバ淡水ノ海水ニ混入スルノ  
 少ナク天然ノ蒸溜器罐ト同シク鹽分濃厚ナルヲ以テ能ク此業ニ適ス  
 ルナク其最モ多キハ山口縣ニシテ二十四年ノ産額九十五万余石價六  
 拾八万余圓ナリトス次ハ香川縣ニシテ八十六万余石價五十二万余圓  
 次ハ廣島縣ニシテ六十八万余石價五十九万余圓次ハ兵庫縣ニシテ七  
 拾四万余石價五十万余圓ナリ岡山愛媛徳島諸縣各三十五万乃至四十

九万余石ヲ出ス

(四) 産業

農業ハ古來國人ノ貴重セシ所ニシテ人民ノ多數ハ本業ヲ取ル然レト  
 モ本邦ハ山岳重疊シテ平原曠野ニ乏シキヲ以テ歐米諸國ニ行ハルハ  
 如キ大耕作法ニヨラズシテ皆小耕作法ニヨリ大地主少ナク多クハ自  
 己ノ田地ヲ耕作ス故ニ地味愈肥沃トナリ收穫年々ニ増加スル傾キア  
 リ田畑ノ總反別凡四百七十萬町收穫ノ最多キハ米ニシテ總計凡ソ四  
 千百三拾七万余石アリ内粳米凡ソ三千七百万余石糯米凡三百七拾余  
 万石陸稻凡三拾六万余石ナリ米ノ産出最多キハ新潟縣ニシテ年々凡  
 二百五十万余石ヲ産シ次ハ福岡縣ニシテ百八十八万余石ハ兵庫(百七十  
 万石余)次ハ山口(百三拾六万余石)次ハ福島(百三十二万石)次ハ千葉(百三  
 十万余石)次ハ熊本縣(百二十八万余石)ニシテ其他百万石以上ヲ産スル



縣地ハ宮城山形秋田廣島等ノ諸縣トス  
 麥ハ米ニツギテ多額ヲ産ス合計千五百九十四万余石ニシテ埼玉縣ヲ  
 最多トス其高凡七十六万余石次ハ熊本縣ニシテ殆ソド前者ニ等シク  
 尙他ノ五十万石以上ヲ産スル諸縣ヲ舉グレハ神奈川千葉茨城群馬愛  
 知兵庫岡山廣島福岡大分等トス  
 豆ハ埼玉縣ノ二十九万餘石ヲ最トシ茨城ノ二十二万餘石ヲ其次トス  
 十萬石以上ヲ産スル諸縣ハ宮城福島千葉長野熊本群馬新潟栃木等ニ  
 シテ粟ハ熊本縣ノ五十五万餘石ヲ最トシ神奈川縣ノ十八万餘石ヲ次  
 トス其他鹿兒島福岡大分千葉茨城岩手等ハ十萬石以上ノ産額アリ黍  
 ハ愛知縣ノ四万餘石ヲ最トシ静岡岐阜二縣ノ二万餘石ヲ其次トス稗  
 ハ岩手縣ノ二十六万餘石ヲ最トシ栃木長野ノ十餘萬石ヲ次トス  
 其他蕎麥ハ青森長野岩手諸縣ニ多ク蜀黍ハ愛知千葉岐阜ニ多ク甘藷

ハ長崎鹿兒島熊本ニ多ク馬鈴薯ハ北海道ニ多ク  
 又特有農産物ナル木綿ハ大坂愛知最多ク三百餘萬貫アリ茨城廣島岡  
 山兵庫愛媛ハ各百萬餘貫アリ蠶ハ徳嶋縣ヲ最トシ五百五十萬餘貫ヲ  
 出ス次ハ愛知縣ニシテ百三十萬餘貫次ハ埼玉福岡三重諸縣ニシテ凡  
 七拾萬餘貫ヲ出ス煙草ハ鹿兒島茨城岡山徳島神奈川等著名ニシテ凡  
 ツ五拾萬貫ヲ出ス麻ハ廣島栃木島根等ヲ可トシ芋麻ハ宮城新潟石川  
 等ヲ良トス菜種ハ大坂府ヲ最上トシ奈良三重福岡諸縣ニ次ク  
 蠶業ハ我邦富源ノ一ニシテ日ニ月ニ盛ナラントスル傾アリ其最モ著  
 名ナルハ福島群馬長野山梨ノ四縣ニシテ明治二十四年中ノ收穫ハ左  
 ノ如シ

福 島	繭	蠶 絲	眞 綿	蠶 卵 紙
一四四、八四一 <sup>枚</sup>	一〇八、八四〇 <sup>枚</sup>	八、二五五 <sup>枚</sup>	四六四、〇三一 <sup>枚</sup>	



群馬	一九三、七一七	三三三、五五五	三、八五二	二二三、七五六
長野	二八一、八五〇	二八四、三七五	三、八〇三	一、二一六、六七五
山梨	六〇、八三〇	八四、三九五	一、〇三四	八七三、三五四
此外産額多キ諸縣ハ神奈川埼玉岐阜滋賀等ニシテ全國合計蘭百五十 八万余石蠶絲百五十四万余貫目ノ多額ニ上ル 茶業モ亦本邦富源ノ主要ナルモノニシテ最モ多額ナルハ静岡縣ナリ 次ハ三重京都岐阜等トス				
静岡	玉露 四〇	煎茶 一、三三、六七七	番茶 七、二六	釜熬 一七六、四九五
			其他 三、六九	合計 一、五七、三七七
三重	一、二七二	五、五、八三	九、二、八四	五、六、七五
京都	三〇、三六六	二四〇、五八八	一、三、八〇一	一、九、九
岐阜	三六五	七九、六三	一、五、一八	五、二、一八
			一、四、九六六	五、四七
				三九〇、七〇五

其他福岡奈良茨城等亦著名ニシテ全國總計額七百九万余貫ヲ産ス  
糖業ハ愛媛縣最多トシ凡ソ三百九十萬貫ヲ産ス次ハ鹿兒島熊本徳島  
長崎大阪等各百万貫余ヲ出ス漆ハ茨城石川ヲ佳トシ蘭ハ岡山ヲ良ト  
ス山梨ノ葡萄酒山形ノ薄荷亦著名ナリ

(五) 鑛業

本邦ハ鑛物ニ富メリ到ル處諸般ノ金屬非金屬多ク中ニモ銅ト石炭ト  
ハ最モ富饒ノ國ナリ而シテ鑛山ニ官行民行ノ二種アリ官行鑛山ノ重ナ  
ルモノハ各種及産出額ヲ列擧スレバ左ノ如シ

鑛種	鑛山	産額
金	佐渡	五五、〇〇〇 <small>外</small>
	生野	二、九五七
	(佐渡)	九四二、九〇七



銀

生野

六四九、〇四九

銅

佐渡  
生野

三、七七四

八八一

丹礬

佐渡

九四、一〇七

鉄

廣島

八三八、八二七

石炭

油戸  
海軍所屬  
筑前炭山

一、六八七、五二六

二、二八五、七二四

概スルニ本邦ノ鑛山ハ東山道ニ多ク三百八十八ヶ所ノ探掘場アリ次ハ山陽道ニシテ七百二十二ヶ所ノ金屬坑ト百三ヶ所ノ非金屬坑トアリ次ハ西海道ニシテ金屬坑六十二ヶ所非金屬坑千三十三ヶ所アリ北陸山陰兩道之ニ次ギ他ハ遠ク此等ニ及バズ全國合計金屬坑二千百九十一ヶ所非金屬坑千四百九十五ヶ所アリ後志ノ岩内石狩ノ幌内并ニ

筑後ノ三池肥前ノ高島ハ石炭坑ノ有名ナルモノニシテ羽後ノ阿仁陸中ノ尾去澤下野ノ足尾ハ共ニ銅鑛ニ著名ナルモノナリ金ニ佐渡ノ金北但馬ノ生野アリ銀ニ羽後ノ院内岩代ノ半田但馬ノ生野石見ノ邇摩アリ鉄坑ニ上野ノ中小阪アリ是等ハ本邦鑛山ノ著ルシキモノナリ各地民行鑛山ノ製出高ヲ見ルニ金ハ鹿兒島ニ最多クノ(凡六十五貫)秋田(凡十六貫)石川(凡十一貫)之ニ次ク其他一貫以上ヲ産スル諸縣ハ山梨福井福島新潟宮城山形岩手等ニシテ銀ハ秋田ノ八千八百五十三貫ヲ最多トシ岐阜ノ(凡一千九百貫)福島(凡一千四百貫)之ニ次ク其他百貫目以上ヲ以テ出ス地方ハ栃木福井兵庫鹿兒島ノ諸縣ナリ銅ハ栃木ノ一千六百貫余ヲ最高トシ福井石川新潟秋田岡山島根愛媛宮崎等ノ諸縣各百貫乃至六百貫ヲ産ス鉄ハ岩手ノ一千四百貫余ヲ最トシ島根ノ一千余貫目ヲ其次トス其他廣島群馬岡山等亦多額ヲ産ス鉛ハ秋田縣ノ



五万九千貫余ヲ最多トシ岐阜ノ五万八千貫之ニツキ栃木福井岡山等亦各一万貫以上ヲ出ス錫ハ鹿兒島ノ七千余貫ヲ最多トシ大分二縣之ニツギ各一千貫乃至二千貫ヲ出ス安質母尼ハ多ク硫化物ニシテ愛媛ノ四十三万六千貫余ヲ最トシ高知ノ七万三千余貫和歌山ノ五万六千余貫目之ニツグ白目ハ岡山山口島根ノ三縣ヨリ出テ滿滝ハ秋田栃木京都ニ多シ其他砒屬丹礬綠礬等アレドモ甚多カラズ石炭ハ採掘高ノ最多キヲ福岡縣トシ四億四千五百万貫以上ヲ産ヌ次ハ長崎縣ニシテ一億六千余貫ヲ産シ佐賀七千八百万貫余北海道七千一百万貫余山口三千七百万貫余等之ニ次グ尙一百万余以上ヲ出ス諸縣ハ熊本福島三重和歌山廣島茨城新潟秋田香川等ナリ硫黃ノ製出高最多キハ群馬縣ニシテ二十八万余貫ヲ出シ次ハ秋田ニ(二十三万余貫鹿兒島十二万貫余大分十二万貫余)ニシテ尙一万貫以上

ヲ産スル地方ニ栃木福島青森等諸縣アリ  
其他ノ非金屬ニハ褐炭石油黒鉛土瀝青明礬水晶等アリ諸方ニ産ス  
今左ニ明治二十四年中ニ於ケル民行鑛山ノ産出額ヲ置ク  
(△採掘高)

金屬

非金屬

金	一二八、七四〇	石炭	△八四七、八二〇、五八〇
銀	一四、〇五七、三三〇	硫黃	四九二、五七六、二
銅	五、〇五九、九七九	褐炭	△四〇二、四八二、三
鉄	四、〇九二、五〇二	石油	一三、〇一二
鉛	二一三、七三五	黒鉛	△六五五、八五一
安質母尼〔硫化〕	一六六、六五六	土瀝青	一、三六九
錫	一一八、〇七	明礬	一、二八五



白目 一、二九六 水晶 △二、三六三  
 滿滝 △八五九、五二四  
 砥屬 二  
 丹礬 六、〇四八  
 綠礬 一、五二一、五二一

(六) 工業

本邦ノ工業ハ古來西洋各國ノ如キ大仕掛ノモノナリ殆ント手工ヲ以テ一般人民ノ需要ヲ充セシニ止マリシガ近來稍西洋ノ機關ヲ輸入シテ新工夫ヲ用ヒ漸次ニ盛大ナラントスル風アリ其主タルモノハ綿絲織物陶器磁器摺附木疊表紙筆金屬品硝子漆器油酒醬油等ノ製造ニシテ工業會社ノ數殆ント一千四百ニ及ビ資金凡二千万圓余ナリ線絲紡績所數ハ凡ソ三十九アリ產出高合計九百九十七萬貫以上ニシ

テ大阪紡績所ハ其内ノ最多數ヲ占メ去二十四年一百三十六萬余貫ノ產出アリ之ニ次グハ三重紡績所ニシテ九十二萬貫余次ハ攝津(八十二萬貫余)浪華(七十萬貫余)鐘淵(東京ニアリ)紡績所等ニシテ東京平野(大坂ニアリ)天滿(全上)泉州、尾ヶ崎、岡山、玉島、岡山縣ニアリ)等亦有名ニシテ各三十萬貫以上ヲ產出ス

織物ノ中反物製造高ハ合計四千万圓以上ニシテ内絹織ハ一千二百万圓以上ナリ他ハ木綿織絹交織及ビ其他ノ織物トス左ニ其最モ著名ナル地方ノ概表ヲ掲グベシ(百万圓以上)

	群馬	京都	愛知	栃木	奈良	良崎	玉
絹織	二、六八、六三三	二、六四八、三七七	四三、三九一	四七〇、三三三	〇	四四〇、二五九	
木綿織	八七、九七七	九〇三、二四五	二、四三三、六〇三	一、四五五、一六五	一、〇三六、二四三	一、二九四、四七九	
絹交織	七、五三〇	一、七六七、五三〇	五七〇、九八七	五八九、四六三	五〇〇	三〇三、五七四	



其他	合計	岐阜	福井	石川	新潟	大坂	和歌山
二八〇、七八四	五、六二、四六六	五、三六八、九三三	三〇六、三、五七	二、五、四、七三三	二、二、四、一八一	二、〇、四、一三三	〇
三〇、七八〇	一、六、六、七六	一、九、七、八二	一、〇、七、三八	〇	〇	〇	〇
絹織	二七、八七九	一、五、六、一五八	五、三、九、三九	四、五、五、四七	〇	〇	〇
木綿織	三、六、四、七五〇	四〇、二、七六	一、七、七、八七九	三、八〇、九、五五	一、二、三、五、八六四	一、一、三、五、八六四	〇
絹織 交織	九八、一、四八一	一、〇、三、九	六、六、八、三	一、三、四、二、九三	九二	二、〇、〇、〇	〇
其他	七六〇	一、一、五、七、五九	二、九、二、一、八八	一、四、六、六、七五	五、〇、六、〇、九四	六、二、五	〇
合計	一、六、一、九、八七〇	一、七、四、三、三三三	一、〇、四、一、六八八	一、一、二、五、四七〇	一、六、五、七、二六三	一、一、三、八、五九	〇

帶地ハ男物合價百三拾万圓以上女物四百六十万圓以上ニシテ尤モ著名ナルハ左ノ六種ナリトス

地名	男物	女物
----	----	----

神奈川	一九一、二六一	三三、二五一
群馬	七九、四一一	一六九、三二三
山形	一一七、七六六	四七、九三八
京都	三七三、六二六	三、一一〇、七五九
岡山	二七七、一七七	九四、〇二四
福岡	二二二、二三八	三八、〇一七

陶器磁器ハ神奈川縣ヲ第一トシ九十万圓以上ヲ産ス次ハ愛知縣ニシテ五十八万圓以上ヲ出ス次ハ佐賀縣三十五万圓余岐阜縣三十四万圓余ニシテ尙京都府石川縣モ十八万圓余アリ

摺附木ノ合計價格二百五拾七万余圓ニシテ尤多ク産出スル地方ハ兵庫トス(百二拾九万余圓)次ハ大阪(七十五万圓余)東京(二拾七万余圓)ニシテ愛知(十一万余圓)モ亦稍盛大ナリ



蠶表ハ總計凡千二百万枚價九十万圓最多シ產出スル地ハ大分縣ニシテ凡二十五万圓ノ収穫アリ次ハ岡山縣ニシテ凡ソ拾五万圓ヲ出ス之ニ次クハ福岡(十二万圓余)廣島(十五万圓余)等ナリ

紙ハ總計八百七万余貫目代價五百万圓以上ヲ產ス其最モ著名ナルハ高知縣ニシテ凡六十五万圓次ハ東京愛媛福岡岐阜等ニシテ價各二十万圓乃至三十八萬圓以上ヲ產出ス

革ハ牛馬鹿三種ヲ總計シテ拾六万枚以上價三十万圓以上アリ其最多キハ兵庫縣ニシテ凡十二萬圓ヲ產シ東京大坂之ニ次ギ三万五千乃至五万圓ヲ出ス

金屬器ハ銅器多ク富山縣京都府ヲ其最モ著名ナルモノトス前者ハ年々凡ソ二十万圓余後者ハ凡ソ十六万圓余ヲ出ス其他各地方概テ此業ヲ行ハザルナシ

硝子ノ製造ハ未ダ盛ンナルニ至ラズ亦品質モ精良ナルモノヲ出サズ而シテ大坂府ニハ十二三万圓余東京ニハ一万圓余ノ収穫アリト云フ

漆器ハ古來最モ精好ヲ極メ其名海外ニ高シ最モ多額ヲ出スハ和歌山縣ノ黒江ニシテ凡ソ拾八万圓ノ収穫アリ次ハ石川縣(凡十四万圓)福島縣(凡十二万圓)等ニシテ静岡愛知徳島等亦各一万乃至五万圓ヲ出ス

油ハ石油ノ出テヨリ大ニ其量ヲ減シ今日極メテ微々タリ主ナル產地ハ福岡佐賀大坂滋賀愛知神奈川等ナリ

酒ハ全國到ル處ニ製造場アリ其數凡ソ一万四千七百ヶ所釀造高合計三百四十万石以上ニ達ス其最モ多キハ兵庫縣ニシテ凡ソ四十三万六千石ヲ產シ福岡縣之ニ次キテ凡十五万九千石ヲ出ス其他長野愛知京都大坂岡山愛媛等各十萬石以上ノ酒類ヲ產出ス

醬油業モ全國各地ニ行ハレ造石高百二十一万余石ニ達シ最盛ナルヲ



千葉縣(十六万余石)トス兵庫(六万七千石)愛知(六万石余)茨城(凡六万七千石)等之ニ次キ其他三万石以上ヲ産スル地方ハ香川神奈川静岡福島福岡等ノ諸縣トス

右ノ外諸省直轄ノ工場アリ其大藏省ニ屬スルモノニ造幣局(年収)凡三百三十万圓余印刷局(凡八十三万圓余)アリ

陸軍省ニ東京大坂ノ兩砲兵工廠(甲ハ收入凡六十八万四千圓余乙ハ四十九万六千圓余)及ビ千住製紙所(凡五十九万圓余)アリ海軍省ニ各鎮守府附ノ造船部兵器部及ビ造兵廠アリ農商務省ニ富岡製絲所(三十九万圓余)アリ

(七) 商業

商業ハ古來本邦人ノ輕視セシ處ニシテ之ヲ營ムモノハ品級ノ最下等ニアリキ去レハ其微々トシテ振ハザリシ事實ニ驚クベキ程ナリシガ

近來ニ至リ漸ク其迷夢ヲ破リテ大ニ之レニ注意シ政府モ亦孜々トシテ之ガ獎勵ニ勉メラル、モノ、如シ去レハ遠カラズシテ其盛況ニ至ランコト期シテ待ツベシ

商業ニ内國外國ニアリ内國商業ハ國內ニ行ハル、通商ニシテ外國商業ハ之ヲ擴張シタルモノニ過ギズ内國商業ニ關シテ述ブベキモノハ流通貨幣銀行商法會議所及ビ商工會專賣特許商標登錄商品及ビ物價等ナリ

貨幣ノ流通及ビ品質ノ如何ハ大ニ商業ニ關係ヲ有スルモノナリ故ニ政治ハ夙ニ貨幣ヲ改鑄シ品質ヲ正シ又紙幣ヲ發行シ銀行券ヲ出サシムル等以テ商業ノ滑利ヲ計ラル、コト舉テ數フベカラス又銀行ハ通貨ヲ不用ニ集メ入用ニ分配シ貸借ノ媒介ヲナシ融通ヲ補佐シ資本ニ十分ナル効果アラシムルノ用ヲナス現今建ル處ノ國立銀行數百三十三



之ニ日本銀行橫濱正金銀行ヲ合セテ百三十五行アリ之ニ私立銀行ノ二百七十行類似會社ノ六百八十行ヲ合スレバ實ニ千八十五行ノ多キニ及ブ國立銀行ノ資本金ハ合計六千二百万圓以上ニシテ流通紙幣二千三百万圓以上トス而シテ資本金ノ最高額ナルハ第十五國立銀行及ビ日本銀行ニシテ甲ハ一千七百万圓乙ハ一千万圓ナリ

商法會議所及ビ商工會ハ各地ニ之レアリ其目的ハ各其從事スル處ノ商工業ヲシテ益隆盛ナラシメントシ相集會シ規約ヲ立テ貨物ノ運轉ヲ滑カニシ賣買ヲ利スル所以ノモノナリ

專賣特許トハ己レガ發明セシ物貨ヲ他人ニ發賣セシメサルモノニシテ品物ニヨリ年限ニ長短アリ商標ハ貨物ノ目印ニシテ之ニヨリ其貨物ノ真偽良否ヲ判斷スルモノナリ政府其登錄ノ制ヲ設ケラレタルハ實ニ各商買ノ權利ヲ保護スル所以ノモノナリ

内國貿易ノ主要品ハ米ニシテ次ハ清酒次ハ大麥大豆等ナリ其他小麥小豆食鹽醬油茶砂糖經節煙草木綿金巾生絲絹類石油石炭薪炭紙等亦主要ナル内國貿易品トス

物價ノ高低ハ主トシテ土地ノ遠近ニヨリ各地一樣ナラズ今米ニツキテ數地ヲ比較セハ東京ニテ四圓九十八錢ノモノ大阪ニ四圓四十六錢馬關ニ四圓十三錢熊本ニ四圓二十二錢新潟ニ三圓八十六錢青森ニ四圓九十錢トナルガ如シ

外國貿易ハ古來之レナキニアラザリシカドモ極メテ微々タルモノナリキ安政六年始メテ橫濱ヲ開港場トセシヨリ兵庫新潟箱館等尋テ開カレ爾來日ヲ逐フテ盛大トナルニ至レリ外國ト取引スル港ハ橫濱長崎兵庫函館新潟ノ五港ニシテ其他伊勢ノ四日市長門ノ馬關豊前ノ門司筑前ノ博多肥前ノ口ノ津唐津肥後ノ三角越中ノ伏木後志ノ小樽釧



路ノ釧路十港ハ特別輸出港トシテ米麥粉石炭硫黃ノ輸出ヲ特許ス  
 二十五年ノ輸出元價總計九千四十万四千七百三十五圓ニシテ其百万  
 圓以上ノ貨物及元價左ノ如シ

品目	元價
穀物及粉類	四、三六五、七四七
海草類	一、五九二、八六九
茶類	七、五二五、三二六
魚介類	二、二〇一、三四六
藥種製藥及染料類	二、一八七、五〇七
生絲類絹布類	四、七八三、三七五
編物類	一、三四八、六六五
陶磁玻璃器類	一、六七八、五三〇

又同年輸入ノ總額ハ七千一百二十七万六千九百四十三圓ニシテ百万  
 圓以上ノ元價ヲ有スル貨物左ノ如シ

金屬及ビ金屬器類	八、六九二、一七一
家具及ビ用品類	三、一五三、一二五
燃料類	四、六五二、一二四
穀物及粉類	五、一〇九、九五四
砂糖類	九、六〇四、三五〇
菓種及製菓類	二、〇八九、一八〇
染料類	一、四八六、四五九
油類	三、七三〇、九七八
綿及糸類	一九、五七七、三八六



綿布類 四、六七八、三九八  
 毛絲及毛織類 五、三一八、九三七  
 交織類 一、三七八、七三〇  
 金屬及金屬器類 五、〇一五、一一〇  
 兵器及火藥類 一、一七一、八四六  
 學術器其他機械類 二、二五八、三六三

通商諸國ノ内輸出ノ多額ヲ占ムルハ合衆國ニシテ次ニ佛蘭西次ハ清次ハ英國ナリ然ルニ輸入品ノ最多額ハ英國ニアリ次ハ清次ハ北米合衆國ナリ

又二十五年本邦諸港ニ出入セル船數及ビ噸數ヲ調査スルニ出港船ハ合計一千二百九十五艘ニシテ噸數一百九十萬一千四百七十四噸入港船ハ一千一百九十五艘ニシテ噸數一百七十七萬八千二百五十三噸ナ

リ又本年中外國貿易ニ從事スル船舶ヲ各諸港ニツキテ見ルニ

港	出 港		入 港	
	内國船 船數噸數	外國船 船數噸數	内國船 船數噸數	外國船 船數噸數
橫濱	六四 九、二九一	二七一 四八、六五五	六八 一〇、五五一	一八三 三四七、九〇六
神戸	二六 二、三〇〇	三七八 六四、五五	一九七 三、九、二五	三四〇 六三、三八三
大阪	七〇 三、七七八	〇 〇	五〇 三、六七六	二 八五
長崎	一〇一 一、一〇、三三三	一〇四 一、八、七三三	一三三 一、四、三三三	一一 一八、三三四
函館	〇 〇	三 四、三三	六 六、三五	六 九、三三四
馬關	七三 五、九四六	一 一、四四	八九 六、五、四〇	六 一〇、〇三三
嚴原	一四 九、一八四	〇 〇	一五 九、六三〇	〇 〇
總計	五八 五、九八六	七五七 一、三二、六五	五七 六〇、五九〇	六四八 一、二七、六七三



第六章 交通

交通ハ維新以來長足ノ進歩ヲナシ陸ニ鉄道郵便電信電話アリ水ニ汽船帆船其他ノ諸船アリ其便利實ニ驚クベク之ヲ二十年前ニ比スルニ眞ニ天壤ノ差アルヲ見ル

(道路) 道路ニ國道縣道里道ノ別アリ國道トハ東京ヨリ各開港場伊勢大廟各府各師團各縣廳ニ達シ及ビ各府各鎮臺ヲ連絡スルモノ縣道ハ各縣連接シ及ビ各鎮臺ヨリ分營ニ至リ各府縣廳ヨリ郡區役所ニ達スルモノヲ云ヒ里道ハ其他總テノ道ヲ云フ今左ニ國道ノ主ナルモノヲ舉グ

東海道ハ東京ヨリ品川靜岡(東京ヨリ四十六里以下治置都市ニハ東京ヨリノ里程ヲ掲グ)名古屋(九十五里)桑名四日市龜山大津(百二十八里)ヲ經テ京都ニ至ル道程百三十一里四日市ヨリ伊勢宗廟ニ至ル山田道ハ

四日市ヨリ津(百十三里)ヲ經テ山田ニ至ル十八里ナリ

中山道ハ東京ヨリ板橋浦和(六里)高崎追分(信濃)福島(全上)岐阜(名古屋)ヲ經テ百四里攝津ヲ經テ京都ニ達スルモノニシテ道程凡百三十七里

甲州街道ハ東京ヨリ新宿八王子上野原(甲斐)石和(甲斐)ヲ經テ甲府ニ達スルモノニシテ道程三十五里余

陸羽街道ニニアリ東京ヨリ宇都宮(二十七里)福島(七十一里)仙臺(九十二里)盛岡(百四十里)ヲ經テ青森ニ至ル之ヲ三陸街道ト云ヒ道程百九十二里一ハ福島ヨリ米澤山形(九十五里)秋田(百五十一里)ヲ經テ青森ニ至ルモノニシテ之ヲ兩羽街道ト云ヒ道程二百四里アリ

陸前濱街道ト稱スルモノハ東京ヨリ千住土浦水戸(二十九里)ヲ經テ陸中岩沼ニ至リ三陸街道ニ接ス陸奥濱街道ハ仙臺ヨリ三陸ノ海岸ヲ經テ陸奥八戸ニ至リ三陸街道ニ接スルモノナリ



下總街道ハ東京本所區堅川町ヨリ千葉ニ至ル(十里)或ハ佐倉ニ至リ或  
 ハ土浦ニ至リ陸前濱街道ニ會ス  
 群馬縣廳ハ東京ヨリ熊谷伊勢崎ヲ經テ二十八里アリ長野縣ハ中山道  
 ヨリ上田ヲ經テ五十九里アリ  
 北陸道ハ北國街道ト云ヒ若狹小濱ヨリ北海岸福井(百三十七里)但シ名  
 古屋柳ヶ瀬ヲ經テ(金澤)百五十九里(富山)百七十六里ヲ經テ新潟ニ至ル  
 街道ヲ云フ  
 大和ハ京都ヨリ大和ノ諸所ニ達スル街道ニシテ奈良(百四十里)ヨリ和  
 歌山ニ達スルヲ本道トス  
 紀伊路ハ大阪ヨリ堺ヲ經テ和歌山ニ至ル街道ヲ云ヒ和歌山ハ東京ヨ  
 リ百六十一里ノ道程アリ  
 山陰道ハ京都ヨリ龜岡ニ至リ兩岐ニ分レ東路ハ宮津舞鶴ヲ經テ豊岡

ニ出テ西路ハ姫路々々合シ豊岡ニ至ル茲ニ兩路相會シテ鳥取(百九十  
 四里)但シ姫路ヲ經テ(松江)二百二十一里萩山口ヲ經テ山陽道ト連絡ス  
 山陽道ハ大坂(百四十四里)ヨリ神戸百五十里姫路岡山(百八十六里)廣島  
 (三百三十一里)ヲ經テ山口(二百六十六里)ニ至ル四國ニ北東南ノ三道ア  
 リ北道ハ徳島(明石)淡路ヲ經テ百七十八里ヨリ高松(二百七里)九龜ヲ經  
 伊豫川之江ニ至リ東道及ヒ土佐路ニ會シ松山(二百三十七里)宇和島ニ  
 達スルモノニシテ東道ハ徳島ヨリ吉野川ニ臨ヒテ伊豫川之江ニ至リ  
 北道ニ合ス南道ハ徳島ヨリ高知(二百三十四里)ニ至リ宇和島ニ達ス九  
 州ノ道路ハ小倉ヲ中心トシ三條アリ東ナルヲ豊後路ト稱シ小倉ヨリ  
 海岸中津ヲ經テ大分(三百十七里)ニ至リ日向延岡宮崎(三百六十八里)都  
 ノ城福山ヲ經テ鹿兒島ニ至ル中ナルハ九州街道ニシテ小倉ヨリ筑前  
 ノ中部ヲ貫キ筑後久留米ヲ經テ熊本(三百二十五里)ニ至リ尙海岸ヲ南



走シテ鹿兒島ニ至ルモノヲ云フ西ナルハ小倉ヨリ西行筑前ニ入リ福岡(三百三里)ヨリ佐賀三百十四里大村ヲ經テ諫早ヨリ長崎(三百四十四里)ニ達ス

琉球那覇ニ至ルニハ海路鹿兒島那瀬ヲ經テ五百七十四里アリ

北海道ノ重ナル道路ハ函館ヨリ北方森ニ至リ海ヲ渡リ室蘭ニ出テ南岸ヲ走リテ根室ニ至ルモノト森ヨリ壽都ニ出テ札幌ヲ經テ西岸ヲ走リ宗谷岬ニ達スルモノトアリ又膽振ノ苦小牧ヨリ西北札幌(二百七十六里)ニ達スル道路ト函館ヨリ渡島ノ南岸ヲ走ル道路トアリ

(鉄道)ニ官設私設ノ二種アリ官設線路長五百三十九哩、五七ニシテ私設ノ線路道一千三百十七哩、六〇合計一千八百十七哩、一七アリ官設鉄道ノ區別及ビ各延長左ノ如シ

新橋神戸間 三七六、三九 大府武豊間 三二〇、一一

大船横須賀間 一〇〇、〇四 米原金ヶ崎間 三二、〇一

高崎横川間 一八〇、〇〇 輕井澤直江津間 九二、一二

私設鉄道ノ區別延長左ノ如シ

秋葉原青森間 (日本鉄道會社) 四五六、〇七

品川赤羽間 (全) 上 一二、五九

大宮前橋間 (全) 上 五二、四五

小山那珂川間 (全) 上 四二、三二

宇都宮日光間 (全) 上 二五、〇〇

新宿八王子間 (甲武鉄道會社) 二二、九六

小山前橋間 (兩毛鉄道會社) 五〇、九四

室蘭歌志内間 (北海道炭礦鉄道會社) 一一四、四八

追分夕張間 (全) 上 二六、六一



平宮幌内間	(全)	上	五六六五
幌内太幾春別間	(全)	上	四四九
砂川空知太間	(全)	上	二八六
標茶跡佐登間	(釧路鐵道會社)		二五八六
草津四日市間	(關西鐵道會社)		四九三一
龜山津間	(全)	上	九七五
難波堺間	(坂堺鐵道會社)		六一六
湊町奈良間	(大坂鐵道會社)		二五五八
天王寺高田間	(全)	上	七一
神戸三原間	(山陽鐵道會社)		一四三三二
門司熊本間	(九州鐵道會社)		一二一三九
鳥栖佐賀間	(全)	上	一五三七

若松金田間

(筑豊興業鐵道會社)

二五六六

九龜琴平間

(讚岐鐵道會社)

一〇一九

外側高濱間

(伊豫鐵道會社)

五八三

其他馬車鐵道會社ニ東京碓氷小田原上毛富士川邊ノ六社アリ線路延長合計二十七里二十三町九間アリ

(郵便)ハ全国各地至ル處ニ布設セラレ電信モ亦各都邑間ニ布設セラレテ事務取扱ノ整頓セルヲ万国ニ比シテ一步ヲ讓ル處ナク否北米合衆國等ヨリハ遙ニ上位ニアリト云フ明治五年ニ於ケル郵便線路及ビ局數等ハ左表ノ如シ

普通鐵道	鐵道	川上	湖上	海路
一一、五四、五七	一、七九、四〇、九	一、二七、五二	一、二二、五二	一、六六、四六、八三
郵便電信局	郵便局	郵便受取所	郵便切手賣下所	郵便函
五三五	三一、六九	五五四	三〇、五八二	三一、四六六



而ノ同年中ニ於ケル郵便物ハ合計二億七千七百八十万五千七百四十  
 三個ニシテ人口一ニ六個六六ノ割合ナリ而ノ葉書ハ殆ント其半數ヲ  
 占ム其他外國ノ分一百四十八万六千八百八十四個アリ  
 (電信局數及線路)ハ左ノ如シ

郵便電信局 電信局 電信取扱所 線路長 線條長

五三七 三二 六四 三、四四五、七七 九、九二〇、九九

發信通敷

五、二八八、一六九

此外外國着信通敷五万四千八百九十五通アリ

水底電信線ハ海底水底ノ二ニ分テ海底線ニ外國ニ至ルモノト國內ノ  
 モントノ別アリ外國ニ至ルモノハ長崎ヨリ清ノ上海ト魯西亞ノ浦撻  
 斯德トニ至ルモノ及ヒ肥前ヨリ朝鮮釜山ニ至ルモノトアリ國內ニ於

テハ大率左ノ如シ

所在	線條長	心線延長	海底線
渡島大森渡陸奥一本木間 佐井間	八四、八〇	一一一、三〇	
越後野積佐渡徳和間	二九、八六	二九、八六	
淡路洲本播磨垂水間	三、四四	三、四四	
備前澁川讃岐乃生間	一一、九三	二五、八六	
長門馬關豊前門司間	三、七八	一一、四九	
肥前南田平平戸間	〇、七五	〇、七五	海底線
肥前小友壹岐郷浦間	一七、九〇	一七、九〇	
壹岐郷ノ浦對馬嚴原間	三九、五〇	三九、五〇	
若松灣	〇、四三	〇、四三	
厚岸灣	〇、七四	一一、二二	



遠太灣	〇、二五	〇、二五
火山灣	一六、八九	一六、八九
計	二二、三七	二六、八九
最上川	〇、六一	一、八三
雄物川	〇、四五	〇、六三
市川	〇、二一	〇、二一
利根川	〇、四九	一、四八
木曾川	一、〇〇	三、〇〇
筑後川	〇、六八	一、三七
計	三、四四	八、五二

河底線

其外福島縣中野及ヒ茂廷隧道栗子隧道等ニハ地中線アリ  
 (航路)日本近海ノ航路甚多ク船舶ノ數亦甚多シ明治二十五年ノ統計

ニヨルニ西洋形商船ハ蒸氣船六百四十三艘此噸數拾万二千三百二十  
 二噸ニシテ帆船七百七十八艘噸數四万五千九百九十四噸アリ日本形  
 商船ハ一万七千一百九十四艘石數二百八十五万一千二百四十七石ア  
 リ而シテ日本郵船會社ト大阪商船會社トノ船ハ獨リ外國マデニ往來シ  
 殆ンド全國ノ海上權ヲ掌握スルモノト謂フベシ今左ニ二會社所有ノ  
 船舶ガ定期航海ヲナス諸港ノ里程ヲ述ブヘシ

横濱ヨリ			
半田	一九五	四日市	二〇四
長崎	七三〇	上海	一〇四〇
山田	三五二	宮古	三七六
久慈	四二五	青森	四六二
神戸ヨリ			
		神戸	三五七
		馬關	五八〇
		石濱	二六五
		釜石	二四〇



境	四四〇	敦賀	五五七	伏木	六九五	直江津	六九〇
新潟	七三〇	酒田	七九五	土崎	八二五	函館	九八四
長崎	三八五	五島	四三七	對馬	四九五	釜山	五四五
元山	八四五	浦邊	一〇八五	仁川	八四五	芝罘	八二〇
天津	一〇六〇	鹿兒島	四〇〇	大島	六一〇	沖繩	七六八
高知	一四二	尾道	一〇八	馬關	二四〇		
函館ヨリ							
厚岸	二二五	釧路	二〇一	根室	二九五	青森	五六
小樽	二〇四						
森ヨリ							
室蘭	二五						
小樽ヨリ							

増毛 五七 宗谷 一六五  
大阪ヨリ

神戸	一二五	多度津	九三、九	別府	二三、〇	今治	一三三、九
三ヶ津	一六〇、七	長濱	一七九、二	宇和島	二九七、九	大分	二三三、三
佐賀	二四七、五	八幡濱	二七七、五	延岡	三二七、四	臼杵	二六一、八
佐伯	二八三、四	細島	三四、〇	三田尻	二四九、二	馬關	二八六、六
尾ノ道	一二三、四	廣島	一七三、七	伊万里	三七、〇	長崎	三九八、六
博多	三一、二	唐津	三三、九	鹿兒島	四二三、七	沖繩	八〇五、七
三角	四五八、六	若津	五〇九、六				
和歌山	三五、六	高松	七四、七				

新編地理終



明治廿七年四月十八日  
 明治廿七年五月十四日  
 印刷發行

(新編地理與付)  
 定價金拾八錢

三二四

版權  
 所有

編輯兼  
 發行者

大橋新太郎

印刷者

宮本敦

印刷所

愛善社

東京日本橋區本町三丁目

發兌元  
 博文館

師範學校  
 學校學科全書

全部拾貳卷  
 正價一冊(紙數三百頁)拾八錢  
 廿七年四月ヨリ向一ヶ年間二完成

中等教育の科目其數多し、師範學校中學校の實に之を教ふるを目的とす、然れども身親しく其學校に入る者も往々參考書なきに苦しみ、各學校亦適當の教科書をささる愛ふ、況や其學校に入る能はずして家學獨習せんと欲する者の如き、殊に良書をささる愛ふること多し、弊館之を編み、今回當代教育界の諸名家に就き、各其専門の述作を請ひ、凡そ中等教育に屬する各科を盡とく編次し、毎月一回之を發行し、一年を以て完成せしむと欲す、世の中等教育を授け又修むる人の勿論、其中の或る學科を修めんと欲する人々の請ふ高評を賜へ

本書總目次

- 第一編 新編 教育學 全 第七編 新編 動物學 全
- 第二編 新編 地理學 全 第八編 新編 植物學 全
- 第三編 新編 學校管理法 全 第九編 新編 國語學 全
- 第四編 新編 物理學 全 第十編 新編 國語學 全
- 第五編 新編 倫理學 全 第十一編 新編 鑛物學 全
- 第六編 新編 歷史學 全 第十二編 新編 算數學 全

以上の各科目出版完了の上、尚ほ諸學科を續刊すべし











72  
57

參謀本部次長陸軍中將川上操六君題辭  
野崎左文君著（全十冊）每卷西洋木版密圖數百幅挿入

# 日本名勝地誌

一冊三拾錢  
郵稅各八錢

本書總目次

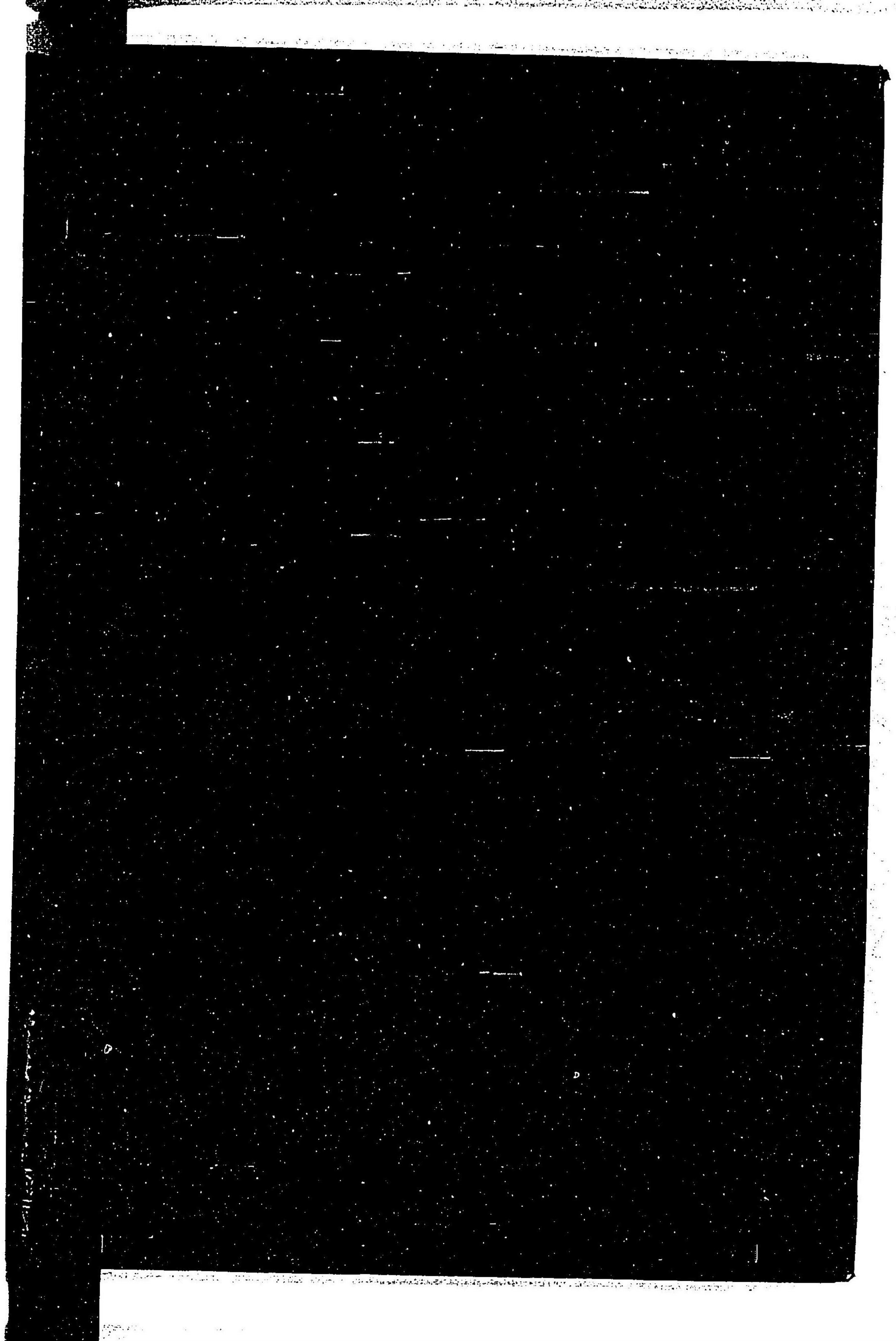
- 第一編 畿内之部 (山城、大和、河内、和泉、攝津、上總、下總、常陸、武蔵、相模、伊豆、附七島、小笠原、駿河、遠江、三河、尾張、美濃、飛騨、信濃、近江、美濃、下野、陸奥、陸前、陸奥、羽前、陸前)
- 第二編 東海道之上
- 第三編 東海道之下
- 第四編 東山道之上
- 第五編 東山道之下
- 第六編 北陸道之部 (丹波、越前、若狹、丹波、丹波、越前、若狹、丹波、丹波、越前、若狹、丹波)
- 第七編 山陽道之部 (播磨、美作、備前、備中、備後、美作、備前、備中、備後、美作、備前、備中、備後)
- 第八編 南海道之部 (伊豫、土佐、阿波、讃岐、伊豫、土佐、阿波、讃岐、伊豫、土佐、阿波、讃岐)
- 第九編 西海道之部 (肥前、肥後、筑前、筑後、肥前、肥後、筑前、筑後、肥前、肥後、筑前、筑後)
- 第十編 北海道之部 (釧路、根室、千島、十勝)

我邦名所圖會者、八案内記の著に乏しからずと雖も概ハ一縣一國近傍二三勝地を駢るに過ぎずして記事亦繁簡其宜しきを待たず、其繁なるものハ徒らに數帙に涉り浩漭にして携帶に便ならず、其簡なるものハ唯だ地名を列するに止まり粗略にして參考とするに足らず、而も其書ハ多ク數十年前の上梓に係るを以て、昨の桑田も今の碧海も變じ往々實地と差ふものあり、豈漫遊者の爲に一大缺點ならずや、著者此に感あり、終に奮つて此書を著す、全編總十冊とし之を五畿、八道に分ち初めに日本地理の總論を論じ次に各道各國、皆地理沿革を叙し各名所、舊跡、神社、佛閣、山川、沼湖、温泉、海水浴場、の如きハ各々郡別とし、遠近の順序に由りて之を詳述す、其の位置名稱ハ悉く新町村の名を以てし、里程戸口も亦た最近の調査に係るものを擧ぐ、而して毎編卷首に細密なる地圖を載せ、卷中にハ數十個の寫眞木版を挿入して、以て各名勝地の實景を描出す、記事の精確、文章の流暢、豈に此に喋々するを須るんや、此書の既刊名所圖會の類に優る者此のみに非ずして、其の地理風土を始り山河の形勢、人情の厚薄、氣候の寒暄、物産の多寡等を記する極めて確實、一國一郡一市一町悉く小地誌を備へたるを以て、之を一冊の大地理書として見るも決して妨げず、著者が名勝地誌の名を負はしたるの意、蓋し此に存す、誠に近代の一大著作にして又探勝家の好侶伴なり、好評を博したることを示さむ。



42
51







022019-000-3

72-51

新編地理

佐野川 泰彦/著

M27

ADA-0302





